資料１－１

発電所内のモニタリング状況等について

2017年5月16日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

（１）港湾内・外および地下水の分析結果について

（２）地下水バイパスの運用状況について

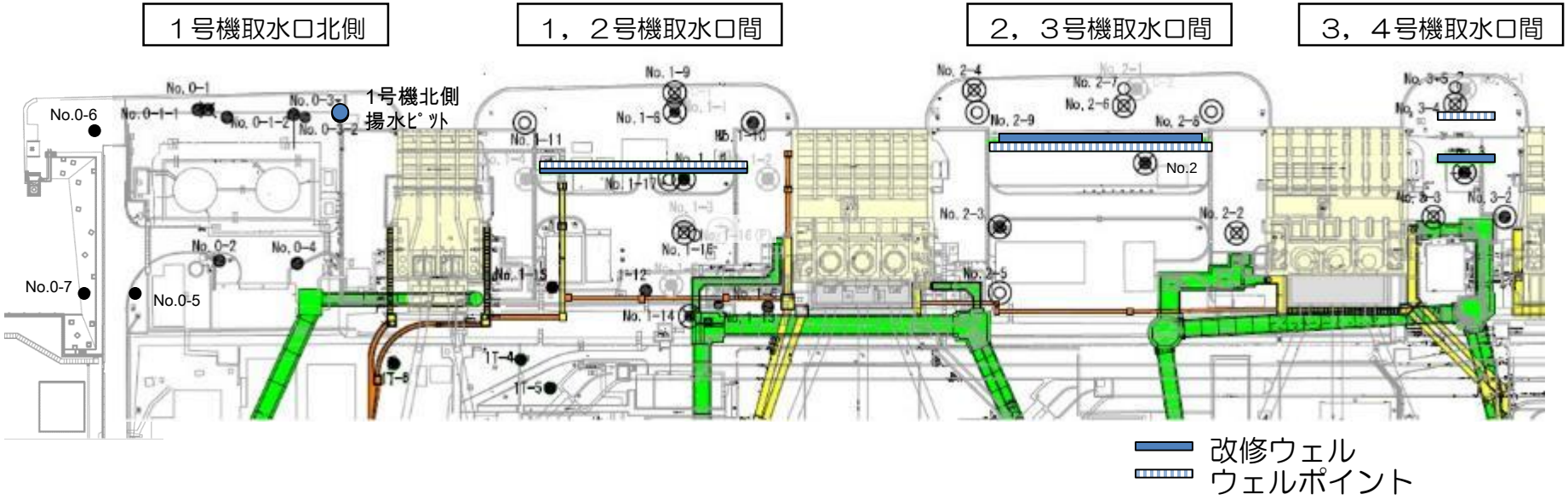
（３）サブドレン他水処理施設の運用状況について

（１）港湾内・外および地下水の分析結果について

タービン建屋東側の地下水観測孔の位置

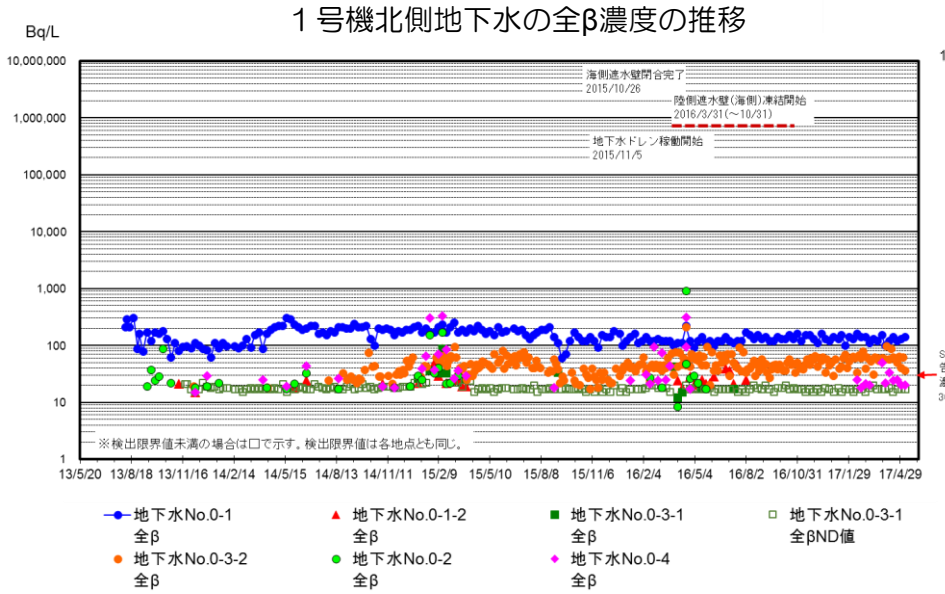
TEPCO

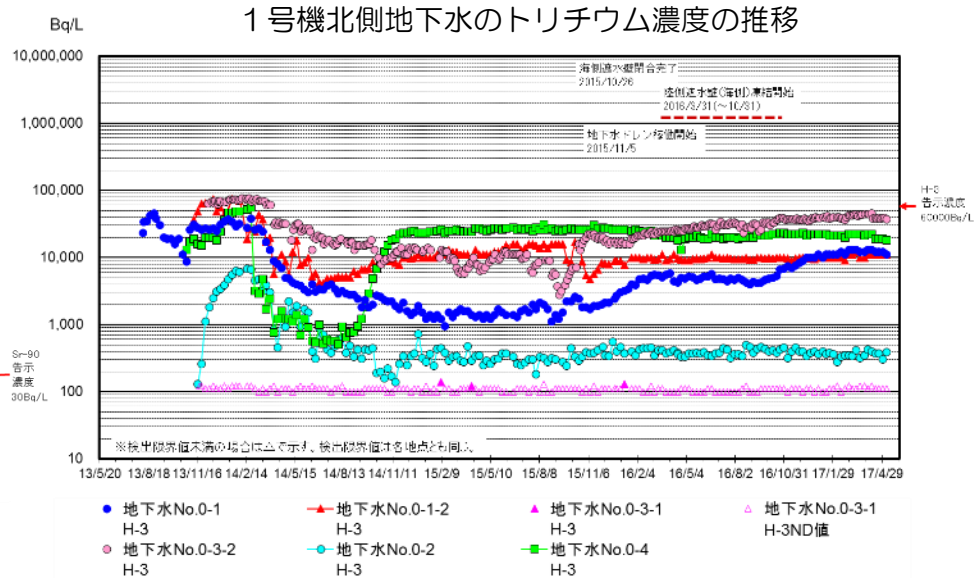
前回以降、新たな観測孔は設置していない。



タービン建屋東側の地下水濃度の状況＜1号機取水口北側エリア＞

○ 先月以降、大きな変動は見られない。
○ 当面監視を継続する。

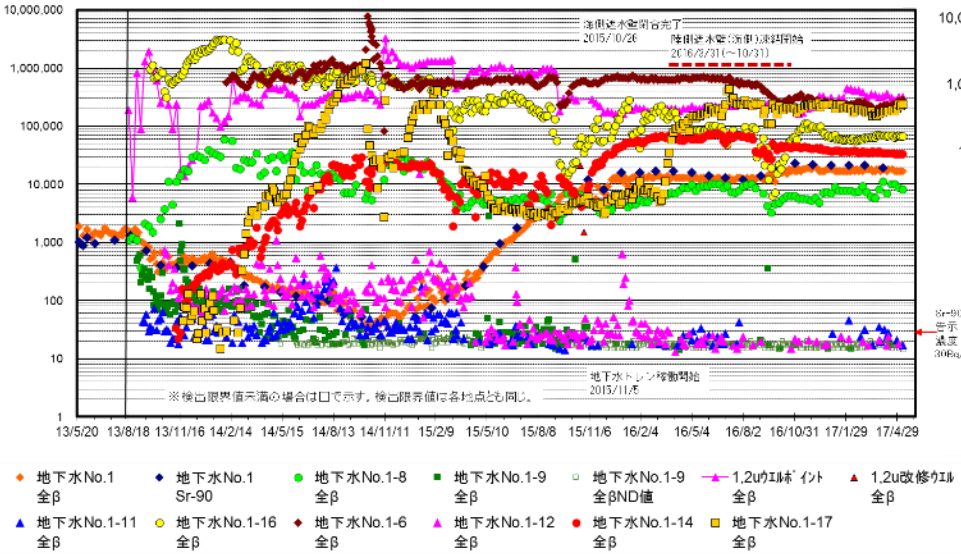




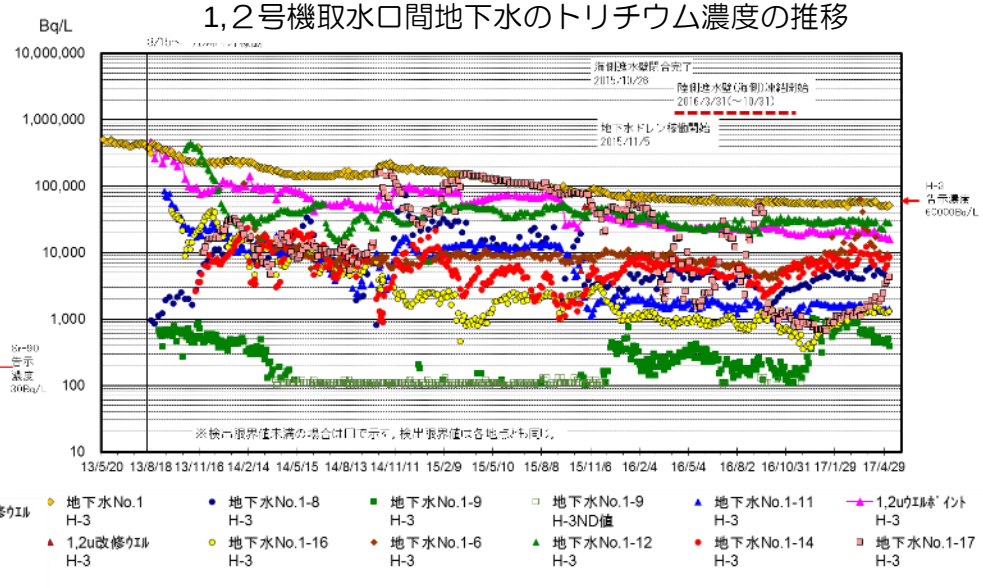
タービン建屋東側の地下水濃度の状況＜1,2号機取水口間エリア＞

○ トリチウム濃度は、観測井によっては変動も見られるが、全体的には横這い傾向。
○ 全βは、横這いの状況。
○ 当面監視を継続する。

1,２号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



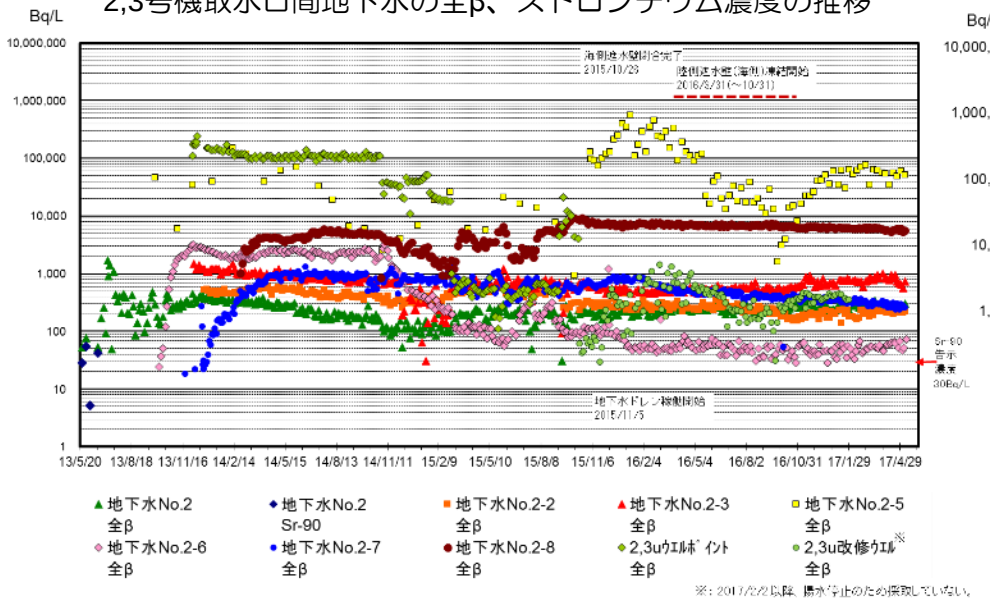
1,２号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



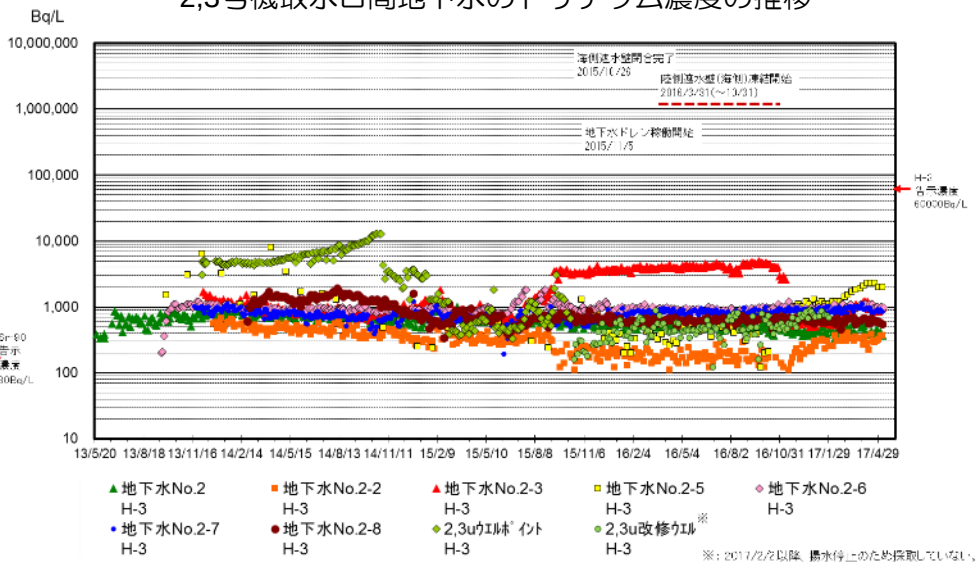
タービン建屋東側の地下水濃度の状況＜2,3号機取水口間エリア＞

○ 全β濃度は、3月以降は横這い状況。
○ トリチウム濃度は、NO.2-5等で若干上昇が見られるが、全体的に低濃度で横這い状況。
○ 当面監視を継続する。

2,3号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



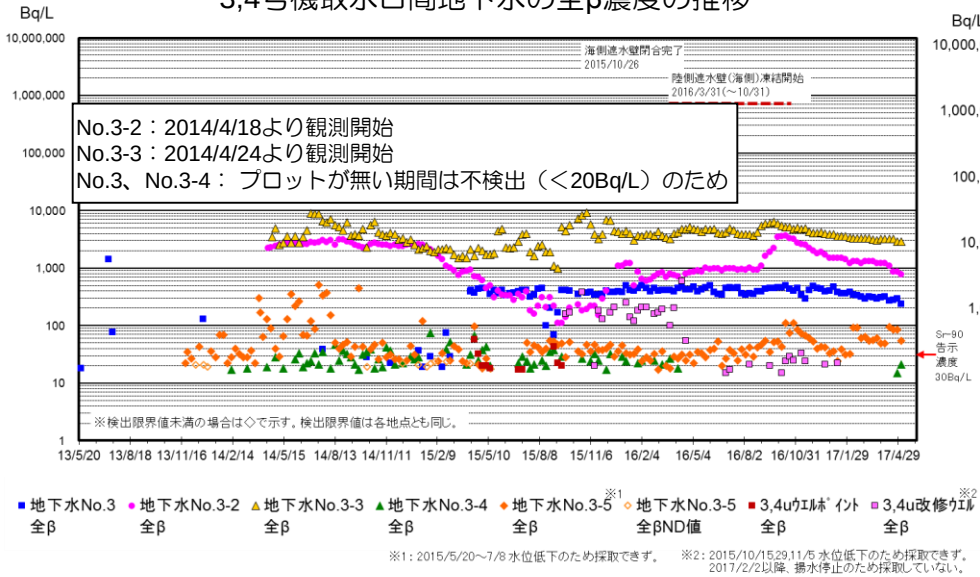
2,3号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



タービン建屋東側の地下水濃度の状況＜3,4号機取水口間エリア＞

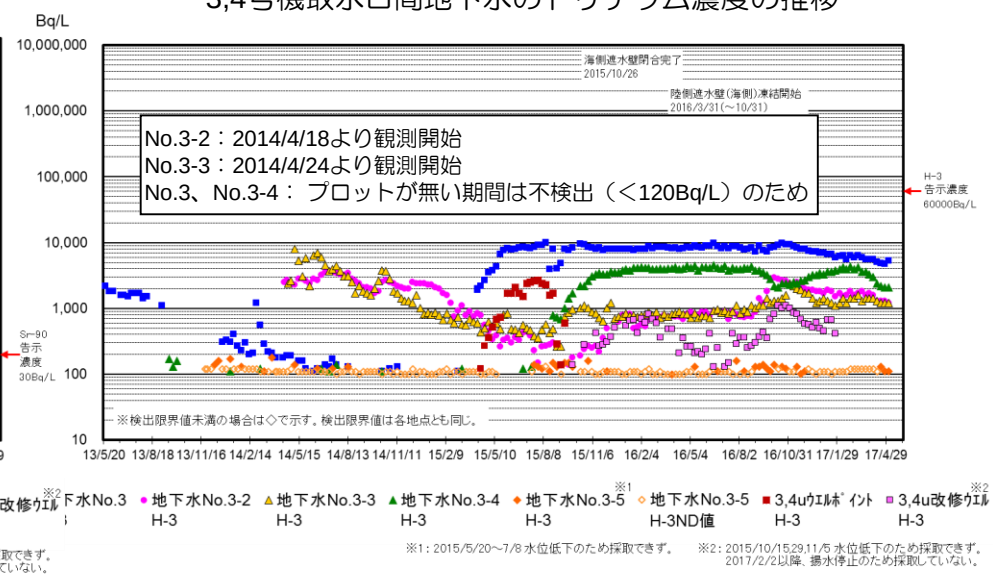
○ 3月以降、各観測孔の濃度は横這い又は低下傾向。
○ 当面監視を継続する。

3,4号機取水口間地下水の全β濃度の推移



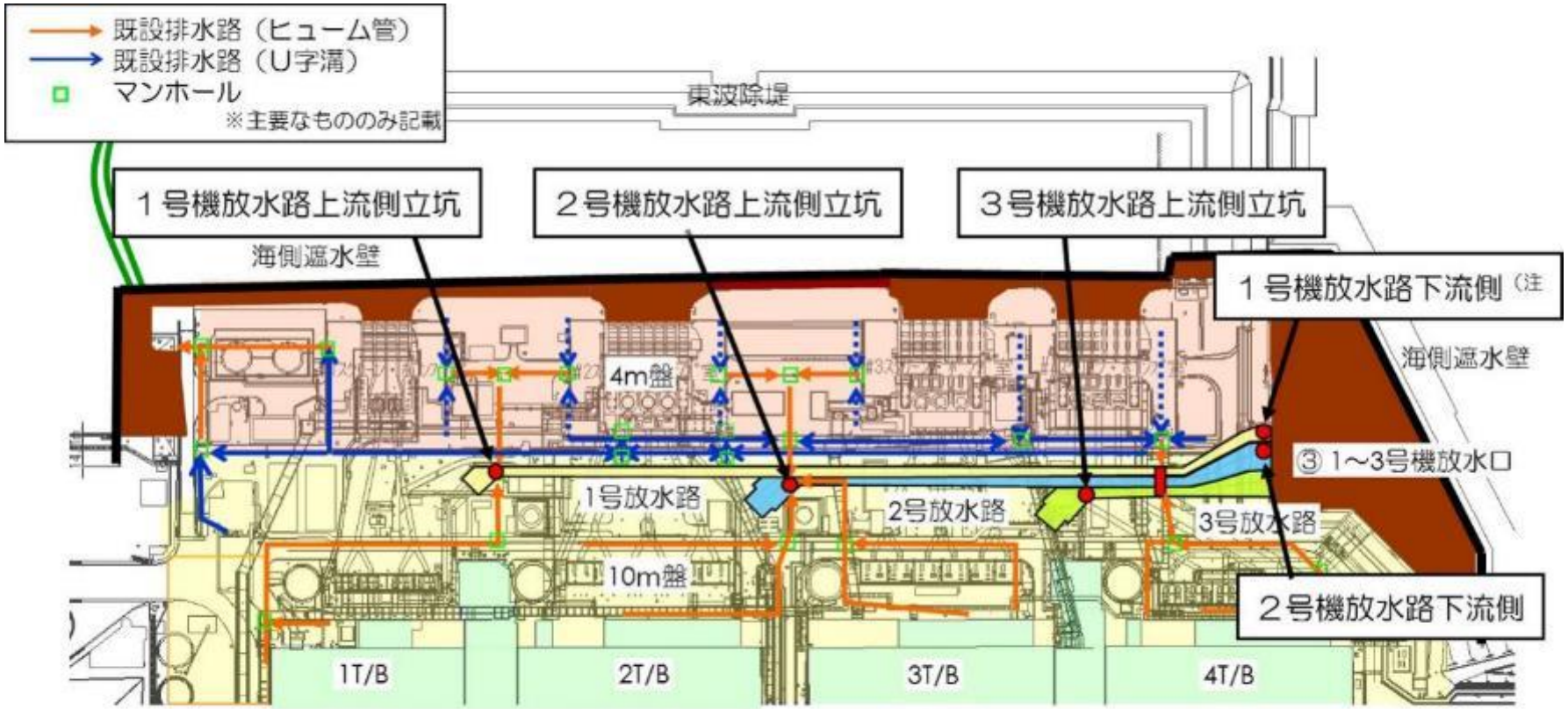
※1：2015/5/20～7/8 水位低下のため採取できず。　※2：2015/10/15,29,11/5 水位低下のため採取できず。2017/2/2以降、揚水停止のため採取していない。

3,4号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



※1：2015/5/20～7/8 水位低下のため採取できず。　※2：2015/10/15,29,11/5 水位低下のため採取できず。2017/2/2以降、揚水停止のため採取していない。

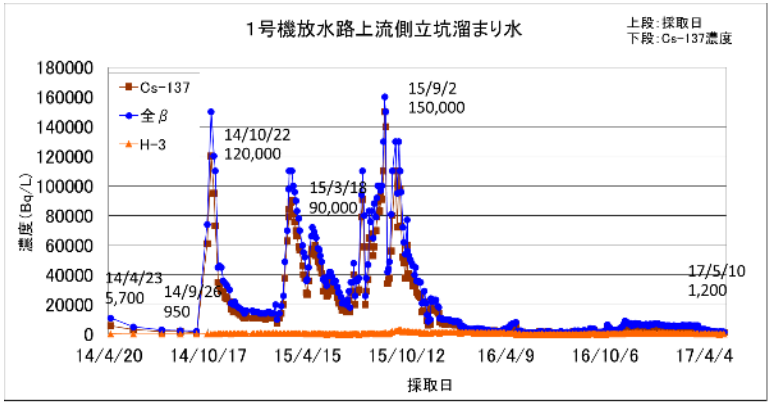
１～３号機放水路及びサンプリング位置図（平面図）



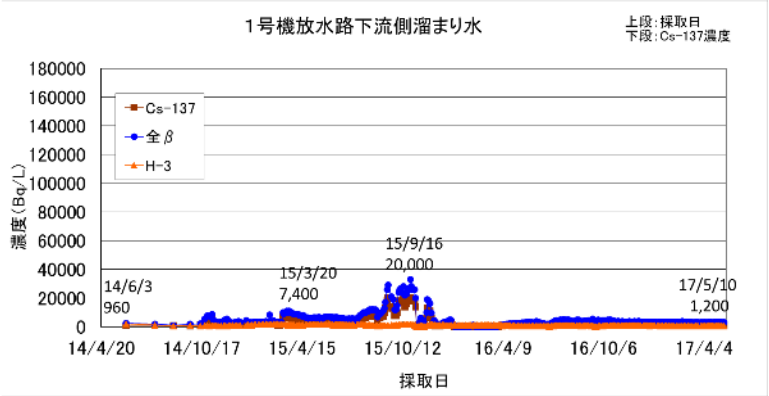
注：ゼオライト土のう設置（２月）以降、放水口から下流側立坑へのアクセス不可のため、放水口上部より採水

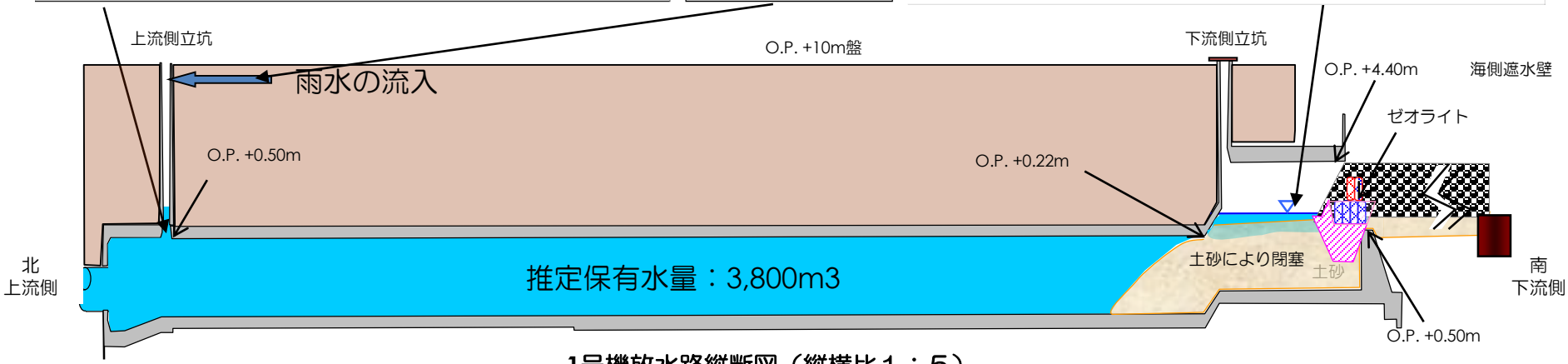
１号機放水路サンプリング結果

- 上流側立坑たまり水のセシウム137濃度は、昨年11月に7000Bq/L前後まで上昇したが、その後低下し、現在は2000Bq/Lを下回る状態。
- 下流側の溜まり水のセシウム137濃度には、上昇傾向は見られていない。当面監視を継続。
- 放水路浄化装置は停止中。



１号機上流側立坑流入水
（１号T/Bルーフドレン
・T/B東側地表）
調査日：14/10/6
Cs134：　420
Cs137：　1500
全β　：　1400
H3　：　9.9
（単位：Bq/L）



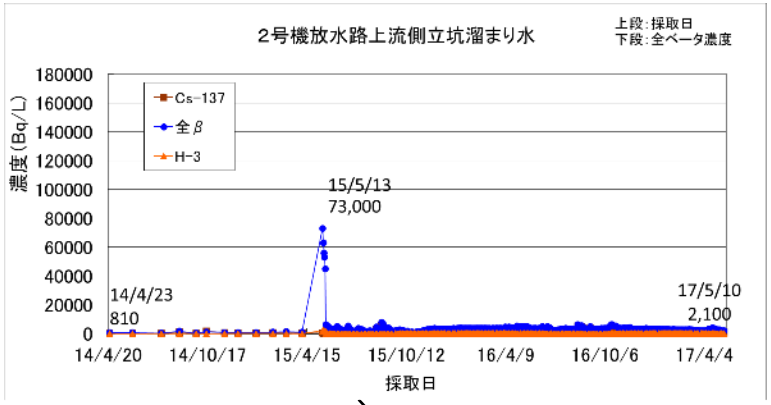


1号機放水路縦断図（縦横比１：５）

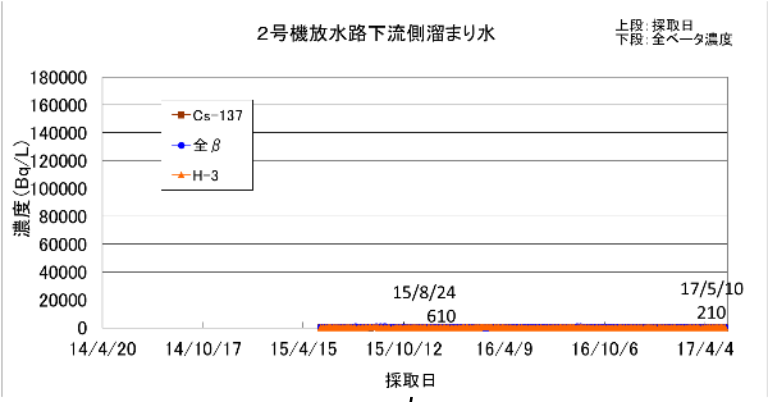
注：放水口へのゼオライト設置により、放水口内への立ち入りができなくなったことから、2015/3/20より放水口上部開口部から採水することとした。

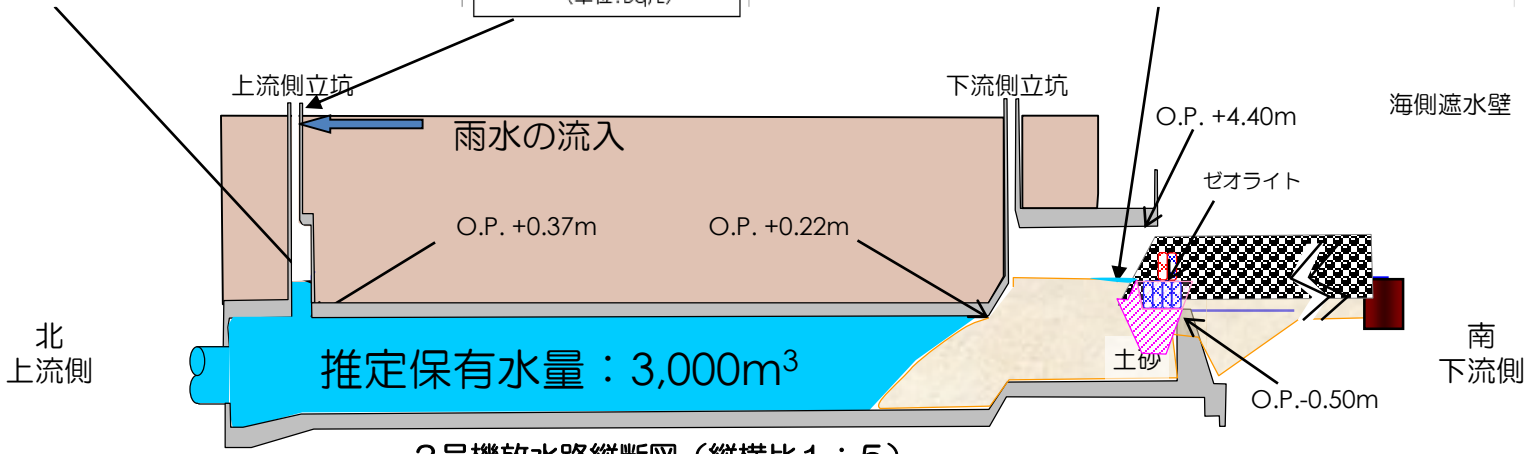
２号機放水路サンプリング結果

- 2号機放水路上流側立坑の溜まり水の全ベータ濃度は、2015年5月に上昇が見られたが、その後は、降雨時に一時的にセシウム濃度の上昇に伴って上昇する場合があるものの、現在は2,000～3,000Bq/L程度で推移。
- 下流側（放水口）の濃度も低濃度で、上昇は見られない。



2号機上流側立坑南側流入水
（3号T/Bルーフドレン
・T/B東側地表）
調査日：15/5/19
Cs134：1,500
Cs137：5,700
全β　：7,700
H3　：ND(110)
（単位:Bq/L）

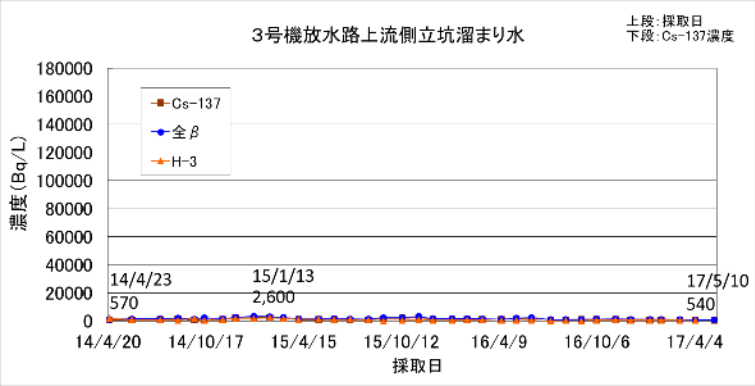




２号機放水路縦断図（縦横比１：５）

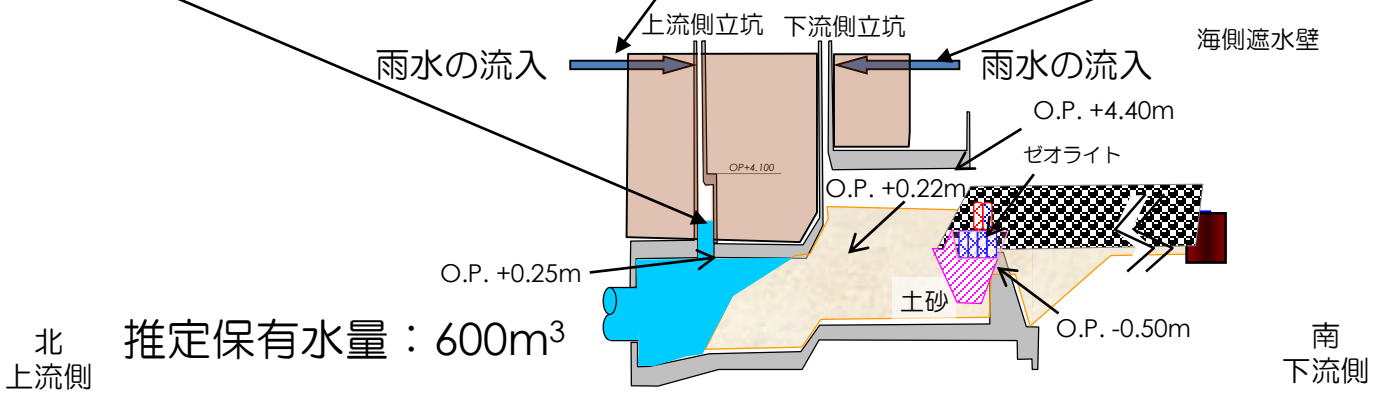
３号機放水路サンプリング結果

- 3号機放水路上流側立坑溜まり水のセシウム濃度は、降雨により若干の上下はあるものの、現在は1,000Bq/Lを下回る濃度で推移。
- 引き続きモニタリングを継続する。



3号機上流側立坑流入水
（3号S/Bﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ・T/B東側地表）
調査日： 14/6/12
Cs134： 1,400
Cs137： 4,100
全β ： 4,800
H3 ： ND(9.4)
（単位：Bq/L）

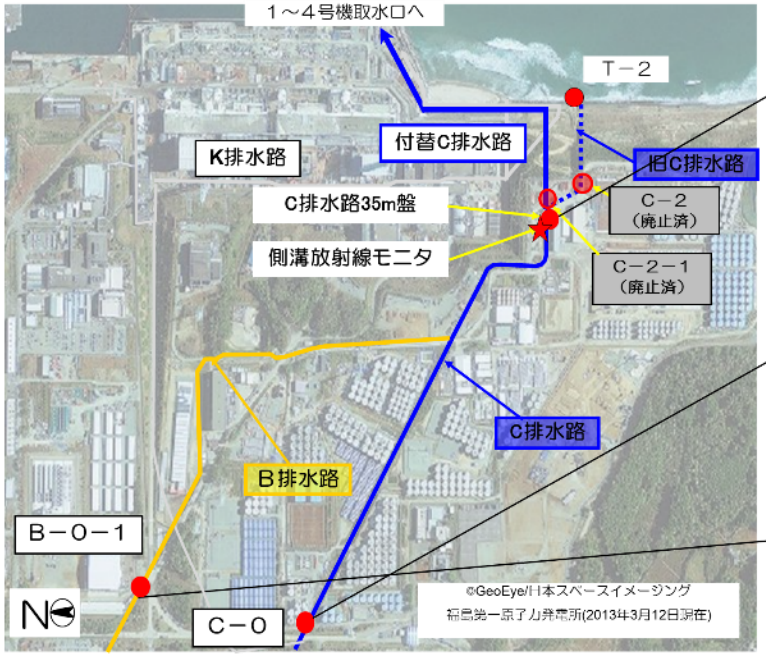
3号機下流側立坑流入水
（4号T/B建屋周辺雨水）
調査日：14/6/12
Cs134： 1,000
Cs137： 2,800
全β ： 3,900
H3 ： 13
（単位：Bq/L）

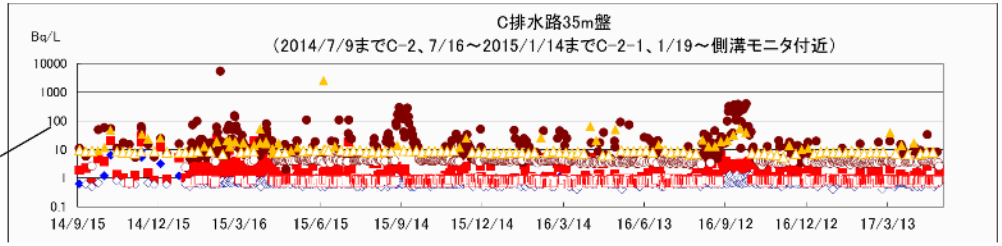


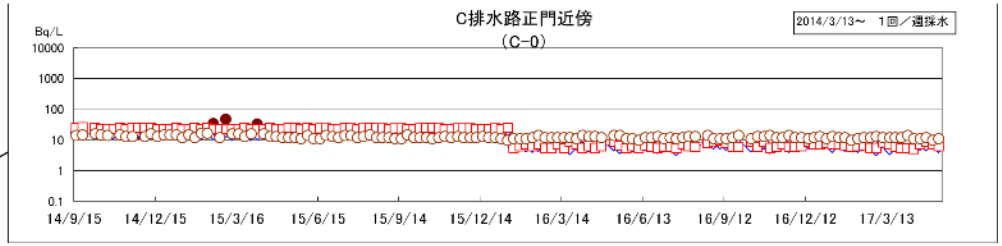
３号機放水路縦断図

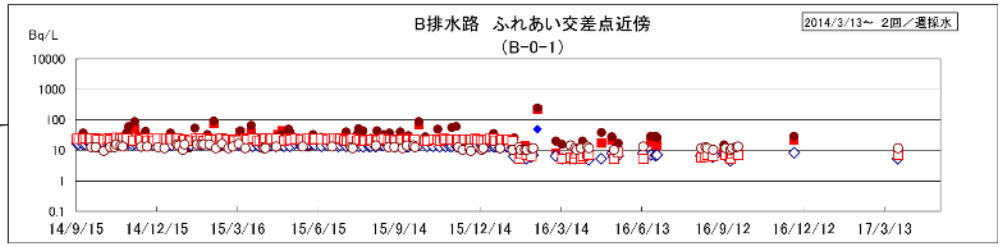
排水路の放射能濃度推移（その１ BC排水路）

- 昨年11月以降は降雨が少なく、低濃度で推移。









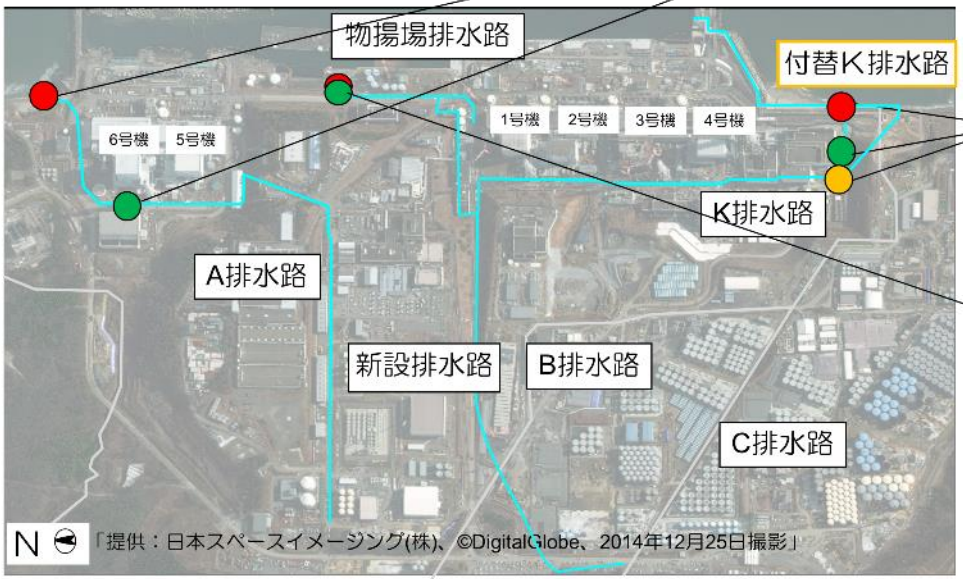
※ B排水路ふれあい交差点近傍は、流量が少ないため、採水できずに欠測となる場合がある。

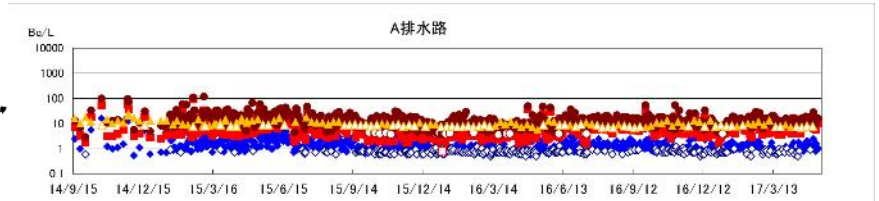
◆ Cs-134　■ Cs-137　● 全B　▲ H-3
◇ Cs-134（検出限界値）　□ Cs-137（検出限界値）　○ 全β（検出限界値）　△ H-3（検出限界値）

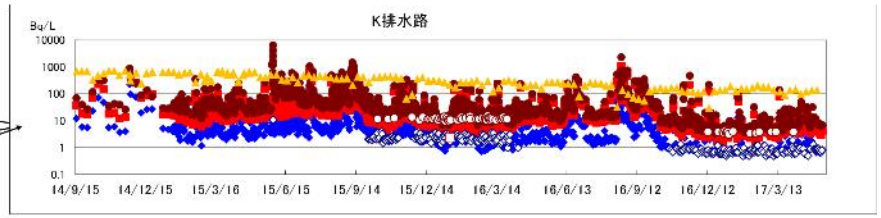
※C排水路正門近傍（C－0）及びB排水路　ふれあい交差点近傍（B－0－1）は、測定器の変更により、2016/1/20採取分よりCs－134、Cs－137の検出限界値が低下。

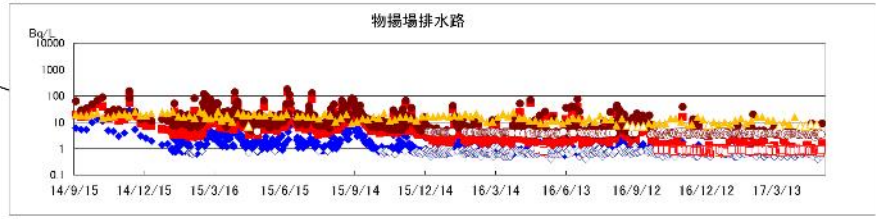
排水路の放射能濃度推移（その２　K排水路、A排水路、物揚場排水路）

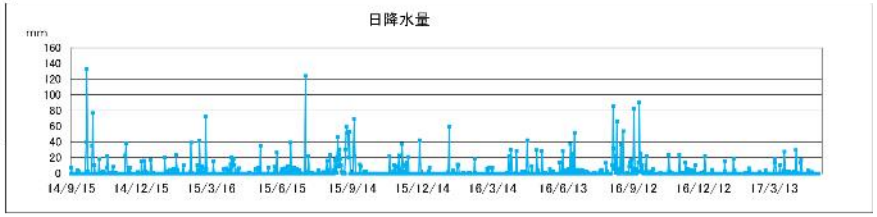
- 昨年11月以降、降雨時の一時的な上昇を除けば、K排水路のセシウム濃度は大きく低下。
- A排水路、物揚場排水路は、降雨時も上昇幅は小さく、概ね低濃度で推移。
- 引き続き、除染、フェーシング、清掃などの対策を継続。











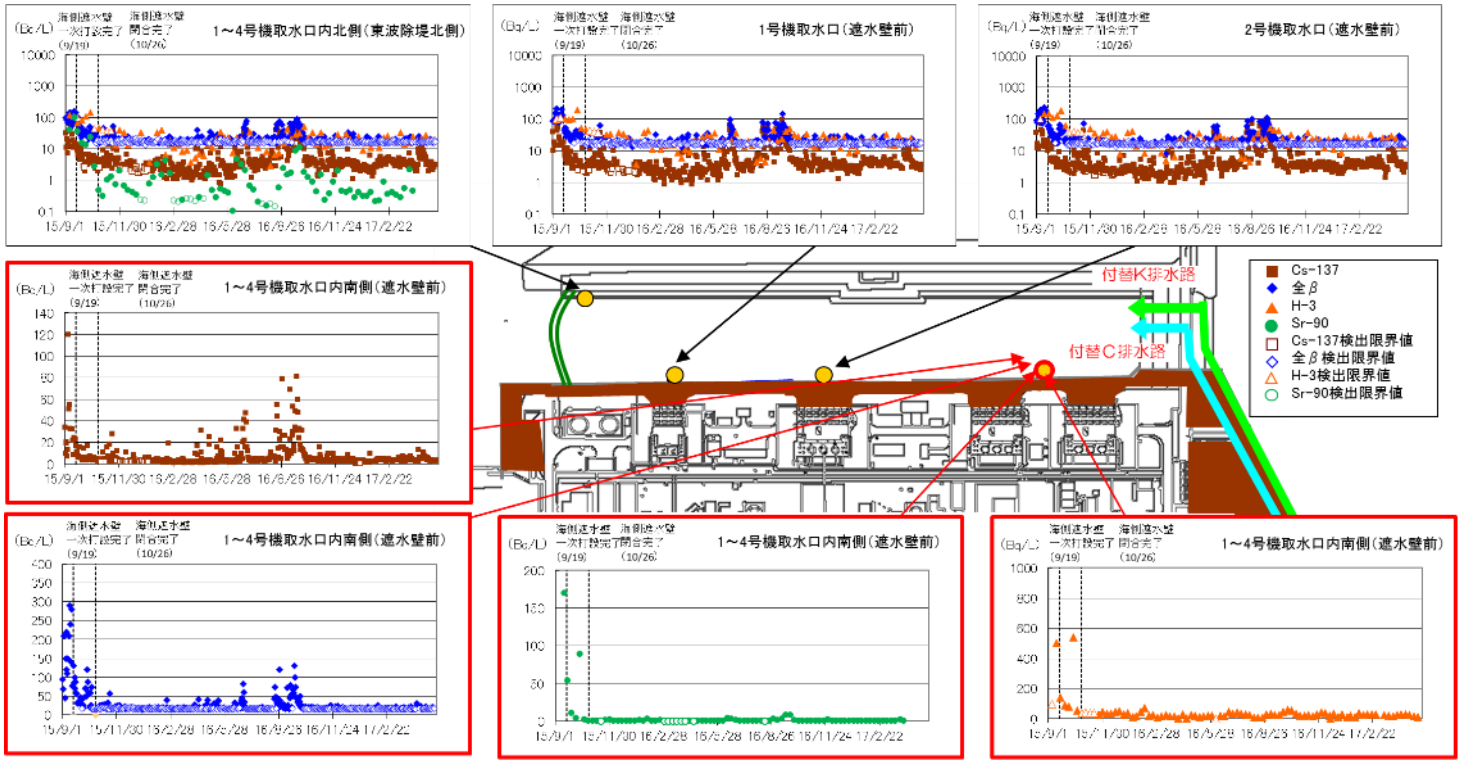
Cs-134　Cs-137　全β　H-3
Cs-134（検出限界値）　Cs-137（検出限界値）　全β（検出限界値）　H-3（検出限界値）

- 採水地点（2015年1月14日以前）
- 採水地点（2015年1月19日以降）
- 採水地点（2016年3月28日以降（K排水路付替に伴い変更））

１～４号機取水口付近の海水サンプリング結果

- 海側遮水壁閉合以降、降雨等に伴い一時的な濃度上昇は見られるものの、放射性物質濃度低下が継続。

【告示濃度】Cs-137:90Bq/L,Sr-90:30Bq/L, H-3:60000Bq/L



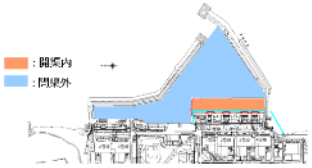


表　海側遮水壁閉合前後の港湾内海水中放射性物質濃度平均値

(Bq/L)

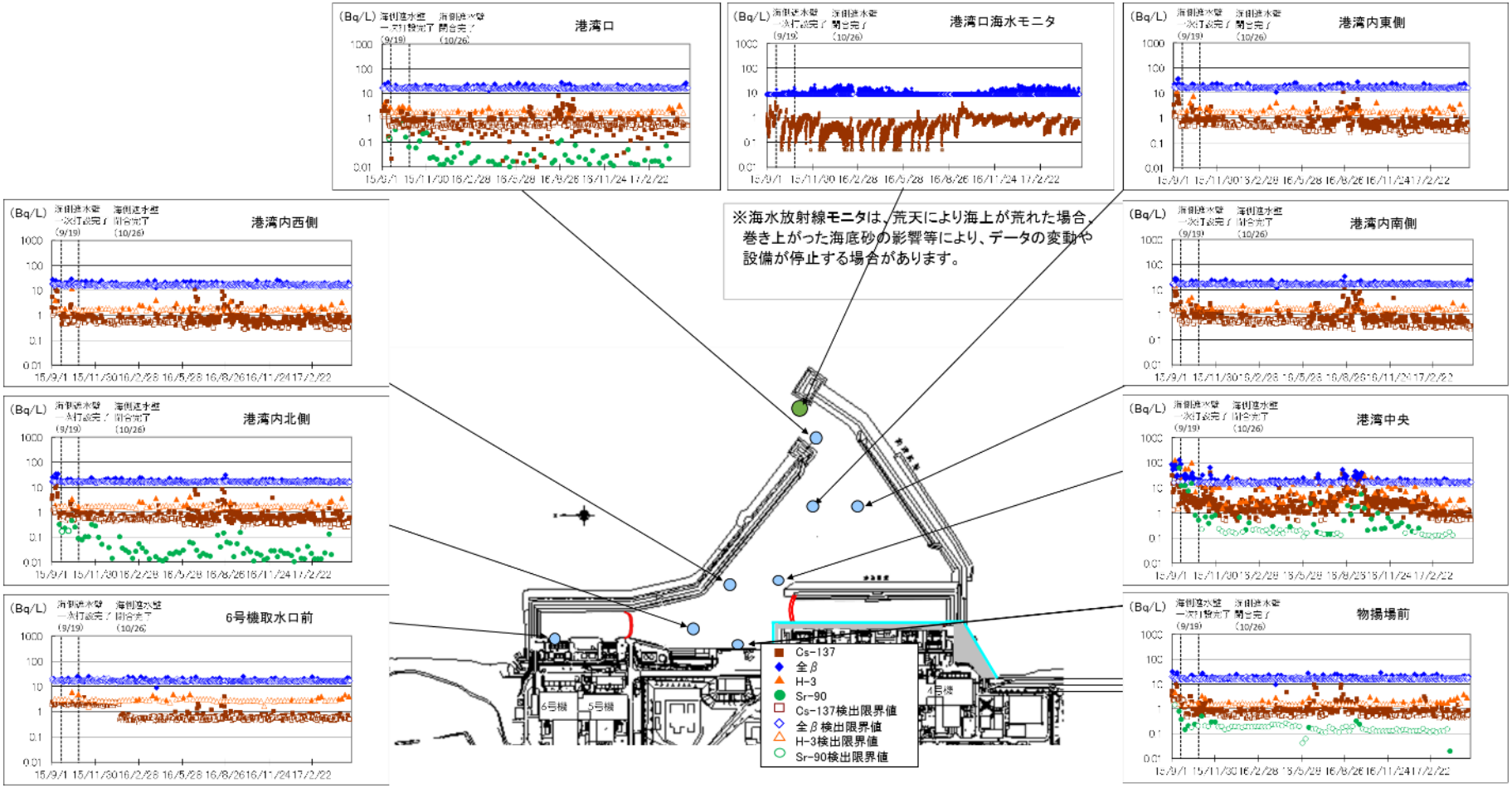
		前5日間平均値※1	後5日間平均値※2	至近平均値※3
全β	開渠内	150	26	18
	開渠外	27	16	17
Sr-90	開渠内	140	8.6	0.78
	開渠外	16	2.1	0.074
Cs-137	開渠内	16	3.8	3.2
	開渠外	2.7	1.1	0.56
H-3	開渠内	220	110	15
	開渠外	1.9	9.4	2.3

※1　H-3については，前5日間のデータがないため，前10日間の平均値
※2　後5日間は，地下水ドレン水位が一定及び降雨がない期間を選定
※3　全βとCs-137は5/10，Sr-90開渠内（速報値）は4/24，Sr-90開渠外は3/20，H-3は5/1に採取した各地点の平均値

※１～４号機取水口内南側（遮水壁前）は，最後に遮水壁閉合を実施した箇所。　海水のサンプリング地点としては，閉合完了まで，地下水の影響を最も受けていた箇所。
※１～４号機取水口付近の海水のCs-137濃度は、2016年1月19日採取分より検出限界値を変更（2.4→0.7Bq/L）

港湾内の海水サンプリング結果

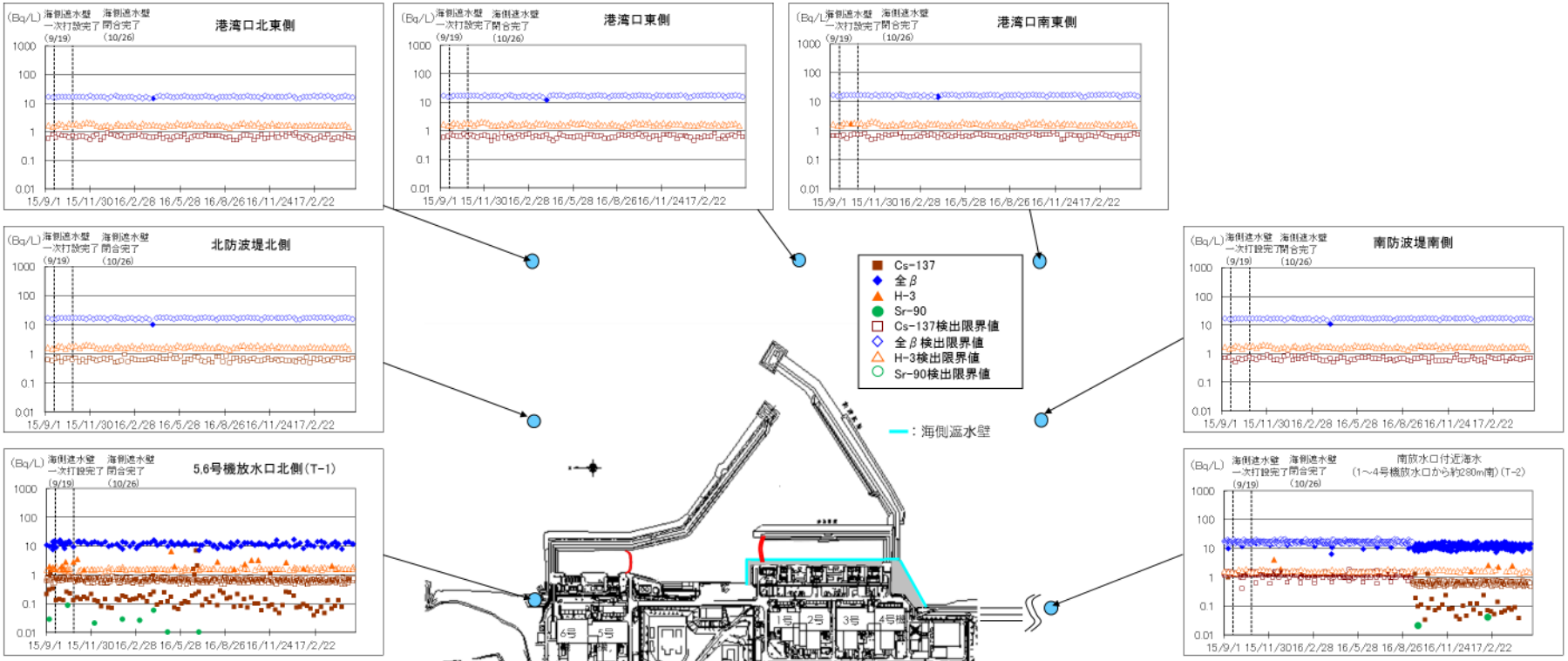
- １～４号機取水口付近同様、海側遮水壁閉合以降、放射性物質濃度の低下状態が継続。



※ ６号機取水口前の海水のCs-137濃度は、2016年1月20日採取分より検出限界値を変更（2.4→0.7Bq/L）
※ 港湾口においては、セシウム137について、週１回詳細分析を実施。
※ 港湾内東側、西側、南側、北側の海水のCs-137濃度は、2016年6月1日採取分より検出限界値を変更（0.7→0.4Bq/L）

港湾外（周辺）の海水サンプリング結果

- 港湾外の各採取点は、従来より低濃度であり、ほとんどが検出限界未満を継続。
- ４月29日に、昨年８月の台風１０号の影響で採取を中止した南放水口から約1.3km南（T-2-1)地点を廃止。



注）15/11/2,16/1/4,6/6,8/1以降のSr-90は、0.01Bq/L未満のためプロットされていない。

注）16/9/16よりT-2-1地点の代替として測定を開始。17/4/28よりT-2-1をこちらに変更。
16/10/3～17/1/2、3/6のSr-90は、0.01Bq/L未満のためプロットされていない。

※ 海域における10Bq/L前後の全β放射能の検出は、海水中の天然カリウム（約12Bq/L)の影響を受けているものと考えられる。
※ 5，6号機放水口北側（T-1)及び南放水口から約280m南（T-2)地点においては、セシウム137について、週１回詳細分析を実施。

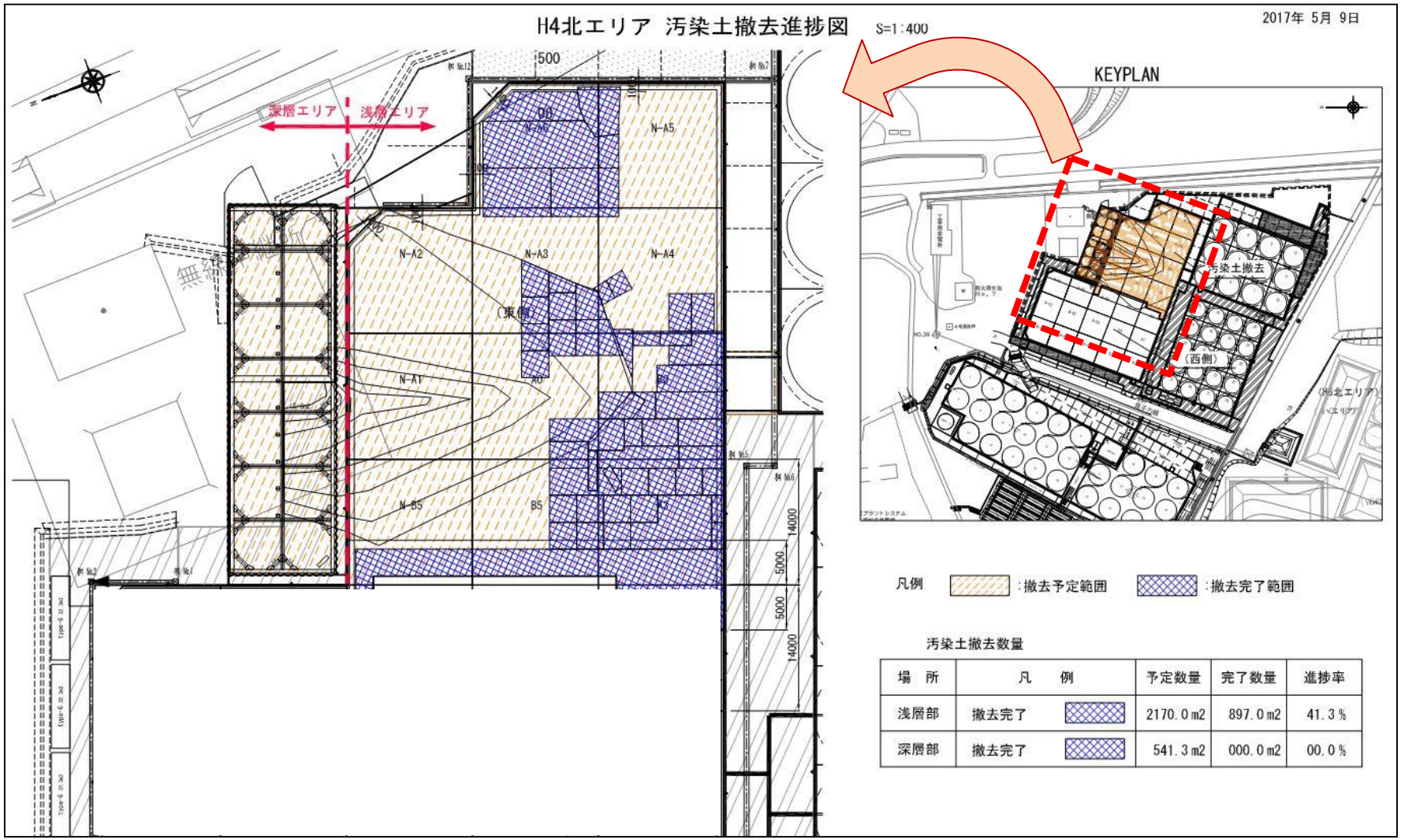
タンクエリア周辺の状況

タンクエリア周辺の地下水観測孔等の位置

- 先月以降、新たな観測孔の設置は無い。
- H4タンクエリアは、タンクリプレースに伴いタンク基礎下部に残留している汚染土壌の回収作業を開始。
- 今後、当該部の土壌回収時にE-1の廃止を予定

H4タンクエリアの土壌回収状況

- 2013年に漏えいのあったH4タンクエリア北側の土壌回収作業を、2017年3月6日より開始。
- 進捗状況については下記の通り。

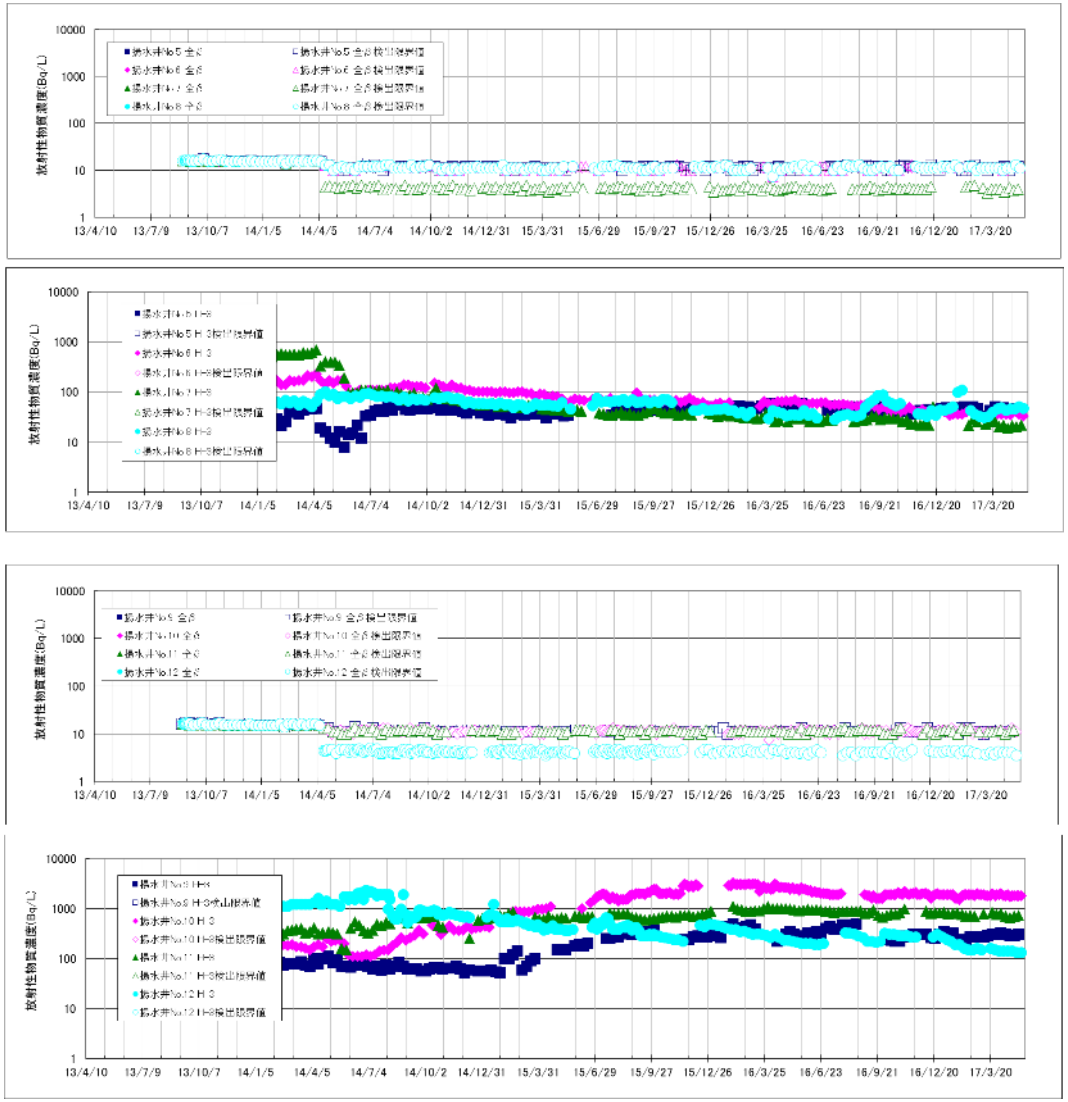


汚染土撤去数量

場　所	凡　例	予定数量	完了数量	進捗率
浅層部	撤去完了	2170.0 m2	897.0 m2	41.3 %
深層部	撤去完了	541.3 m2	000.0 m2	00.0 %

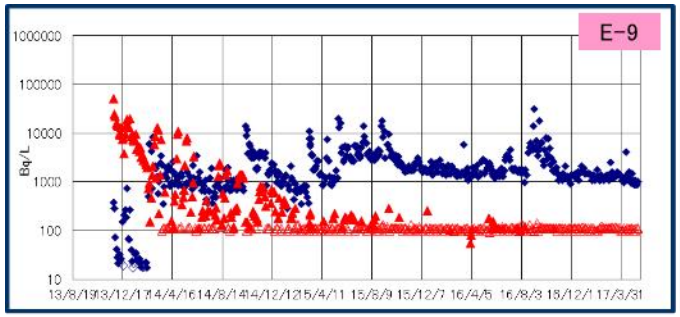
地下水バイパス揚水井の放射能濃度推移

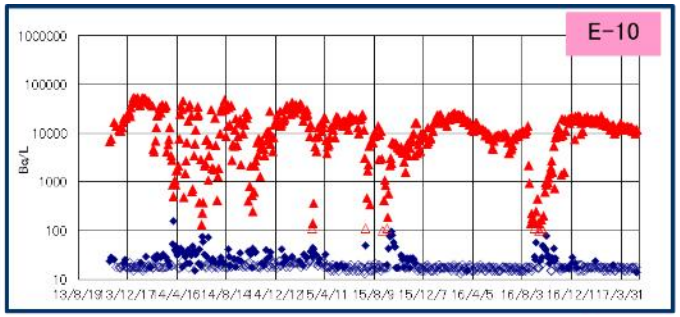
- 揚水井No.10のトリチウム濃度は、横這い状態。
- その他の揚水井のトリチウム濃度は、1,000Bq/L程度以下で推移。
- 全βには特に変化はみられていない。
- 引き続きモニタリングを継続する。

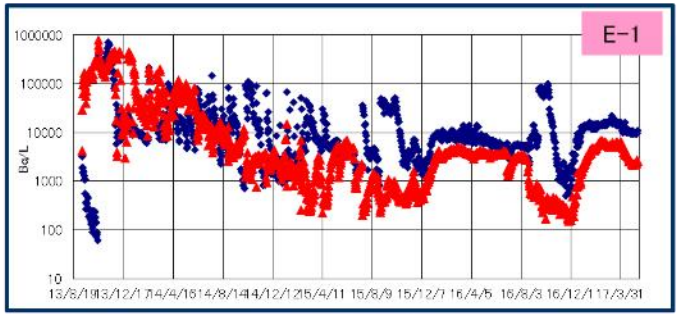


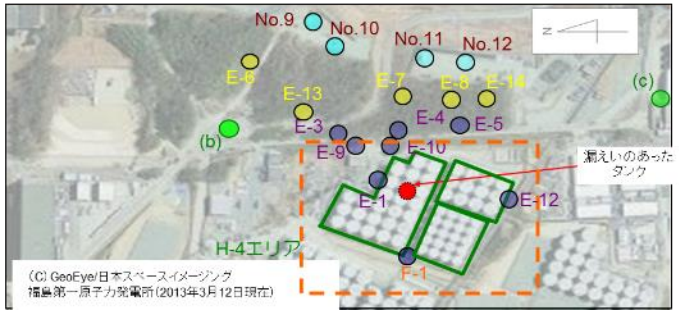
観測孔の放射能濃度推移（H4タンクエリア）

- 4月に入ってから、E-１の全ベータ、トリチウム濃度が低下傾向。
- E-9、E-10観測孔は横這い状況。
- 当面、モニタリングを継続する。



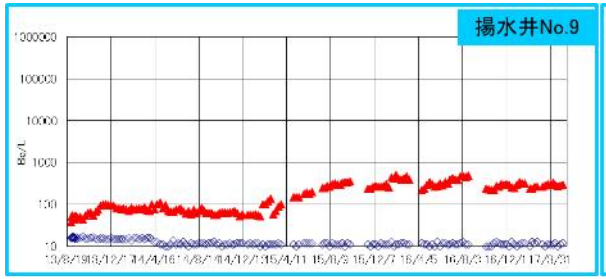


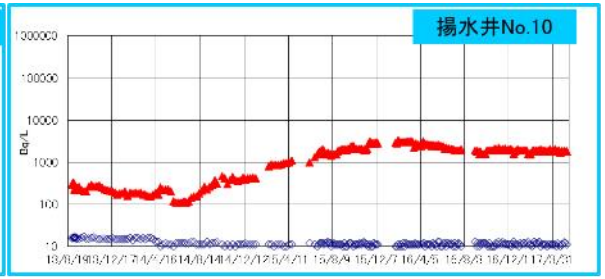


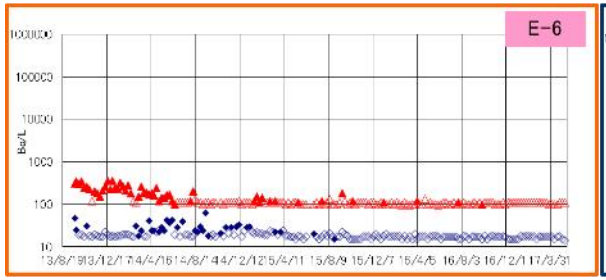


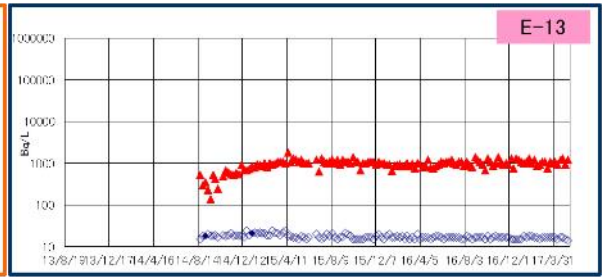
観測孔の放射能濃度推移（H4タンクエリア北東側）

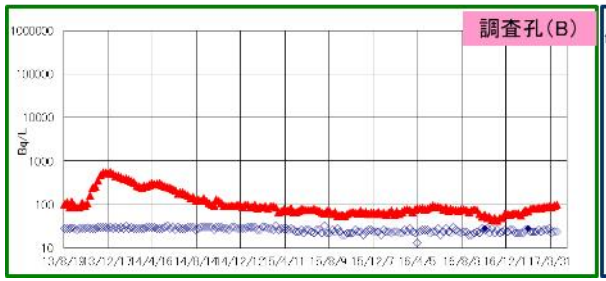
- 1月末以降、E-3のトリチウム濃度が若干上昇したものの、現在は低下傾向。
- その他の観測孔では、前回以降、変化はみられない。

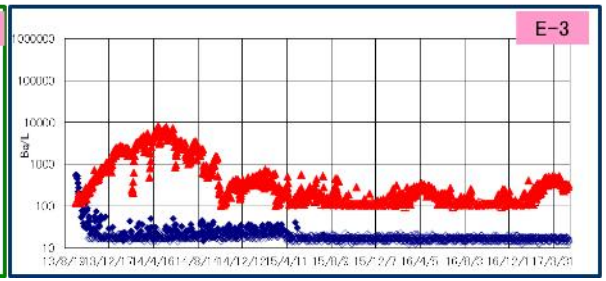


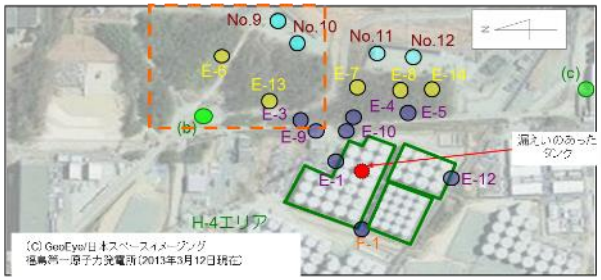






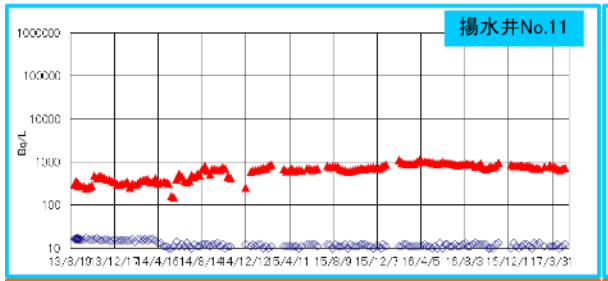


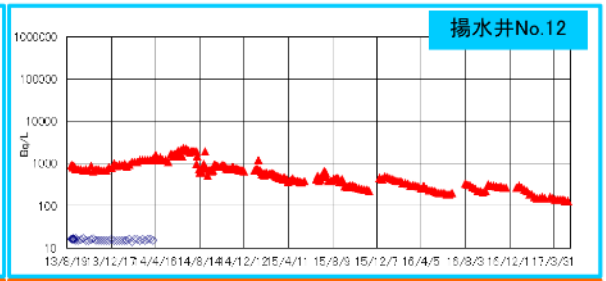


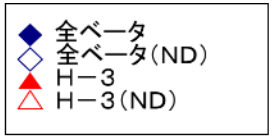


観測孔の放射能濃度推移（H4タンクエリア南東側）

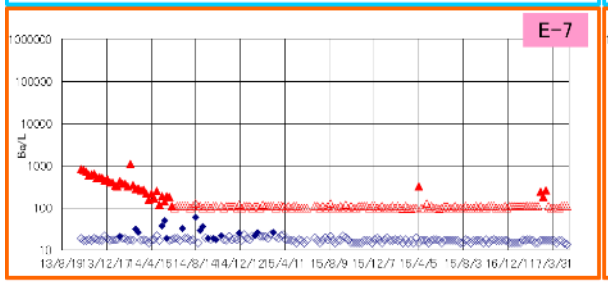
- 各観測孔の濃度は横這い状態。
- 全体の傾向に大きな変化はみられない。

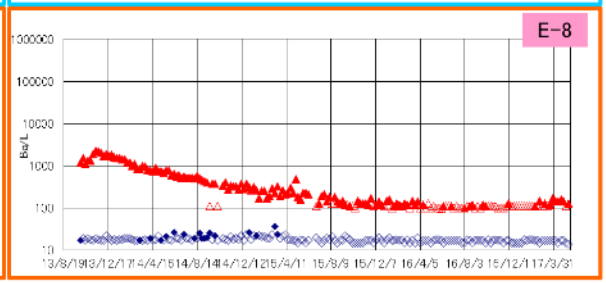


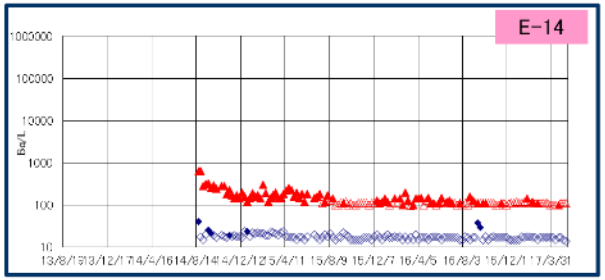


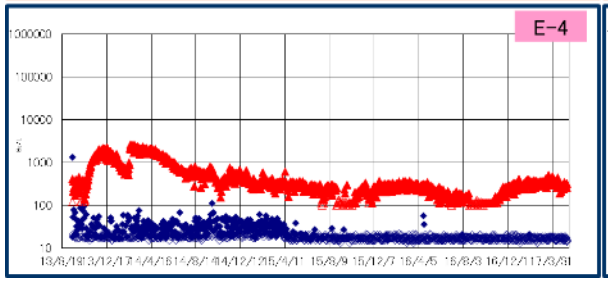


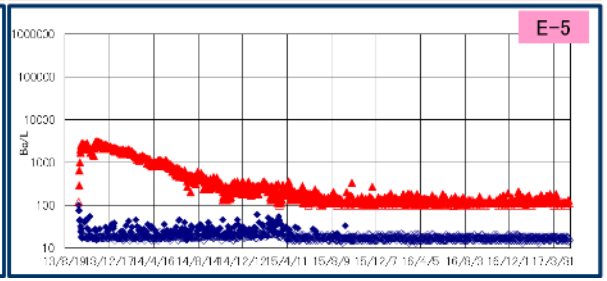
注：揚水井No.12の全β濃度は、4/15以降も不検出であるが、検出下限値を5Bq/L以下に下げて運用しているため、グラフ上にプロットされていない。

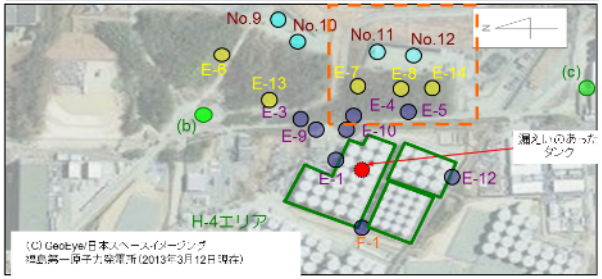






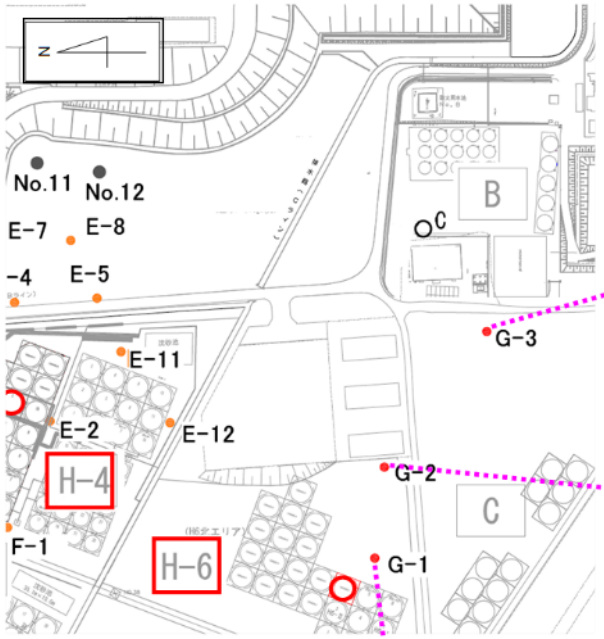


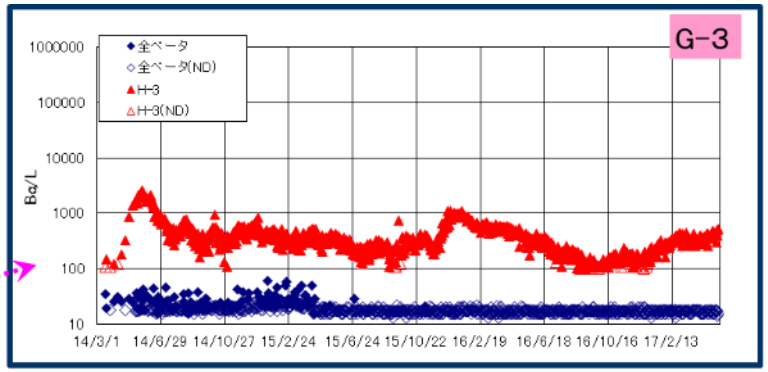


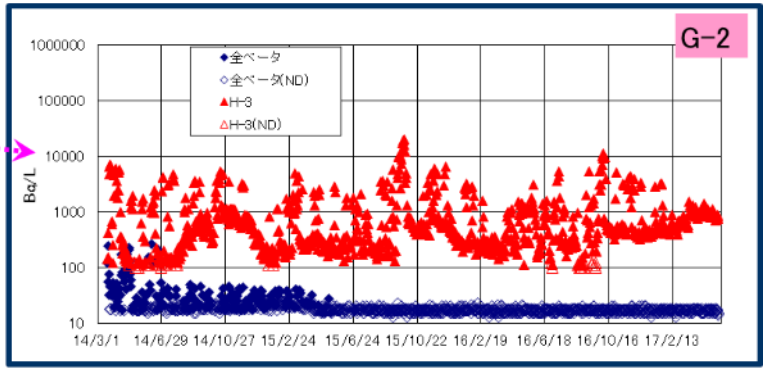


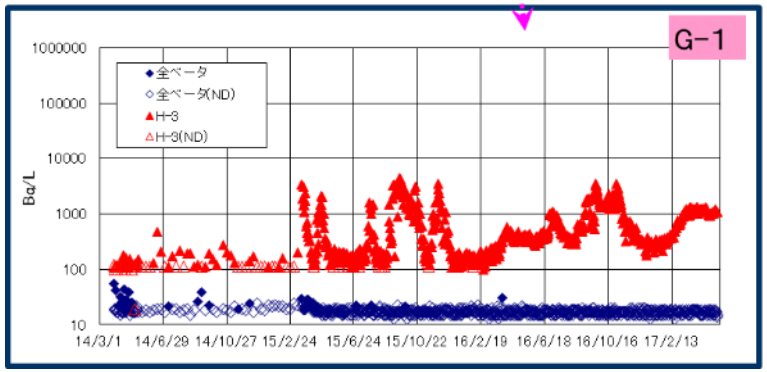
観測孔の放射能濃度推移（H6タンクエリア周辺）

- トリチウム濃度は、1月以降、G-1、G-3で若干上昇が見られたが、現在は横這い状態。
- 全ベータ濃度は、いずれの観測孔も低濃度で変化は見られない。
- 引き続き監視を継続する。









地下貯水槽のモニタリング状況

地下貯水槽No.1～3周辺の地下水モニタリングの状況

TEPCO

- 地下貯水槽No.1～3は、2013年4月に漏洩が確認されて以降、モニタリングを強化し、監視を継続中。
- 昨年3月以降、周辺観測孔で全β濃度の検出が見られたことから、さらに採水頻度を増やして監視を強化したが、濃度の上昇は一時的で、短期間に低下。昨年10月以降は、ほとんど不検出。
- 残水のあった地下貯水槽No.2についても、3月16日に水抜き※を完了したことから、4月より観測頻度を見直して監視を継続中。

※ポンプ汲み上げ可能レベルまで水抜き

- 未使用の地下貯水槽No.5の撤去作業を3月28日より開始。

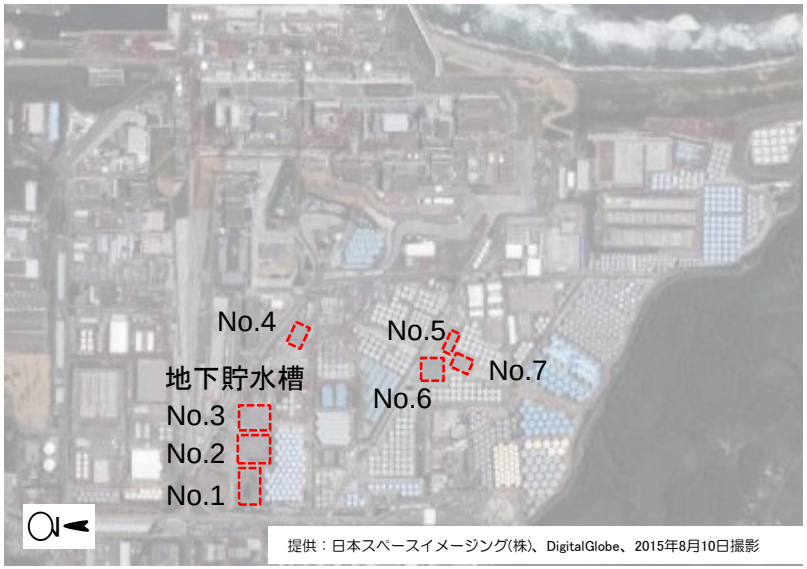


図　地下貯水槽の位置

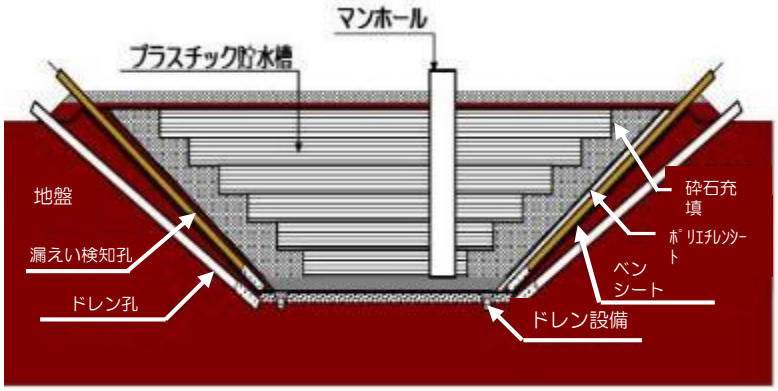


図　地下貯水槽の構造

地下貯水槽No.1～3周辺のモニタリングの状況（周辺観測孔）

- 地下貯水槽No.1～3の周辺観測孔については、4月より観測頻度を月1回に戻して監視を継続。4グループに分け、毎週4～5孔を採水、分析する。
- 3月24日に周辺観測孔A-1で濃度上昇が見られたが、これまで同様、翌日以降濃度は低下。

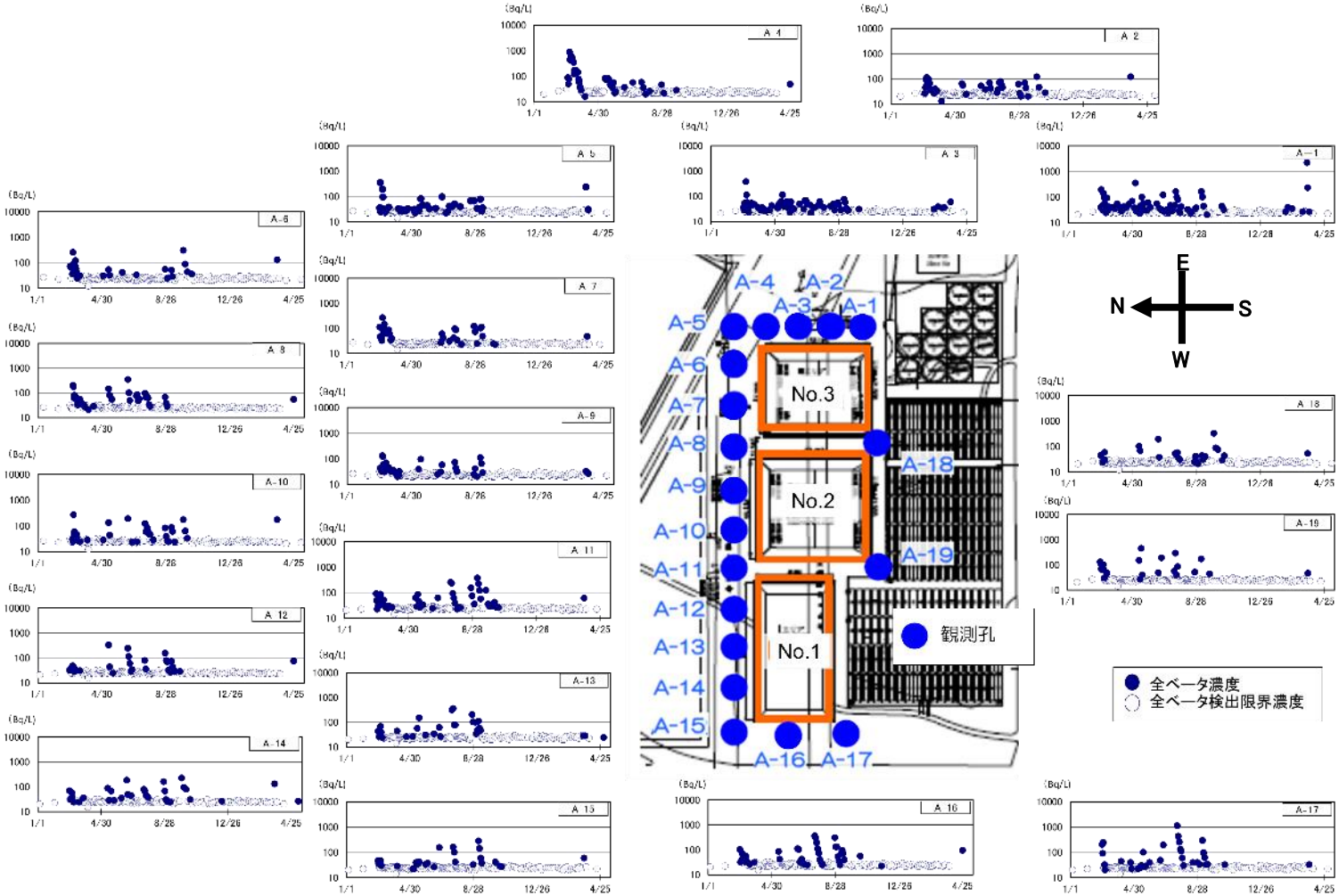
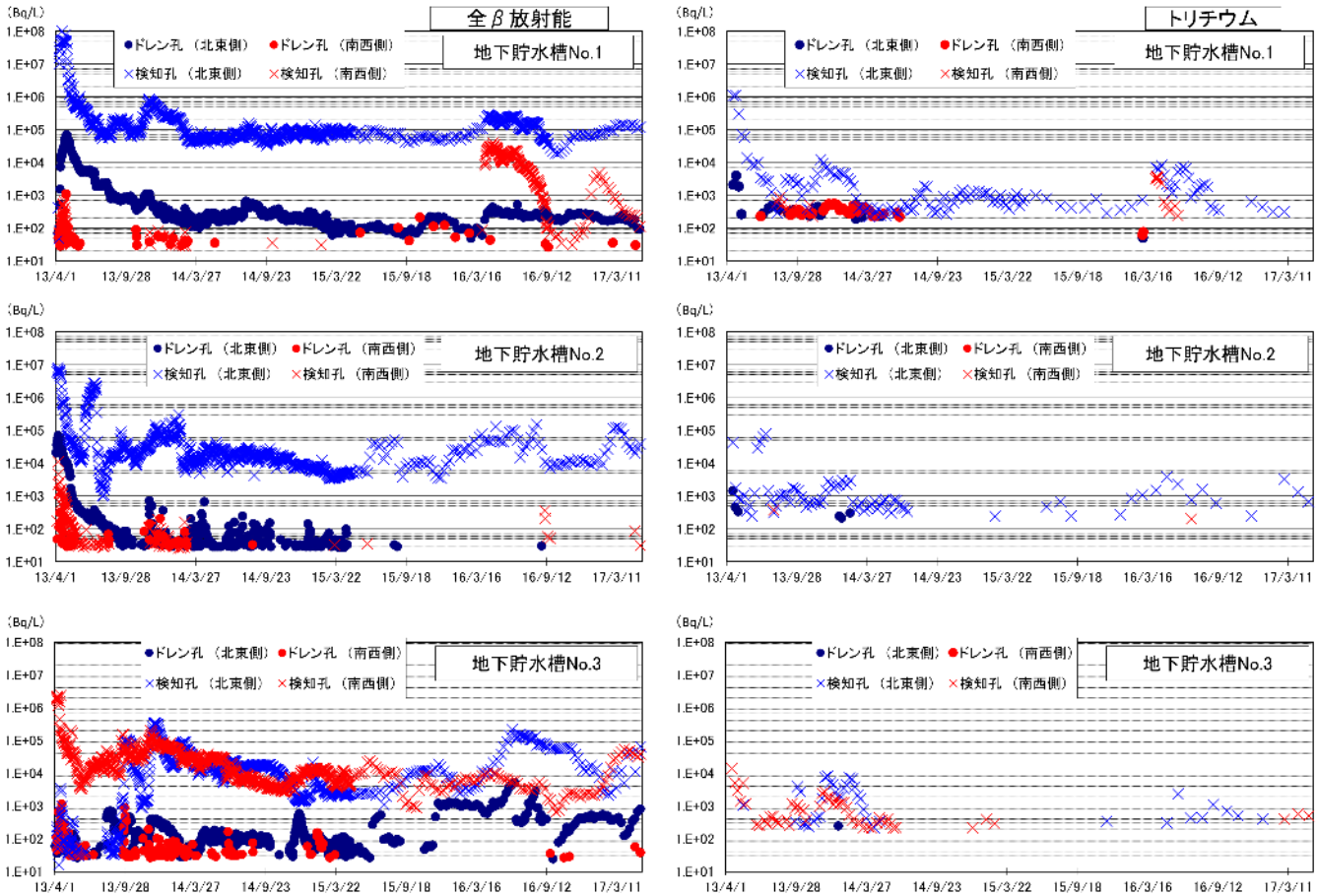


図　地下貯水槽No.1～3周辺観測孔の全ベータ濃度（２０１６年１月～）

地下貯水槽No.１～３周辺のモニタリングの状況（検知孔、ドレン孔）

TEPCO

- 昨年4/6に、地下貯水槽No.１の南西側検知孔において全ベータ、トリチウム濃度が上昇したものの、その後もドレン孔の濃度に大きな変化は見られていない。
- 地下貯水槽No.２では、北東側検知孔のみ変動がみられるが、ドレン孔に変化は見られない。
- 地下貯水槽No.３でも、検知孔の全ベータ濃度に変動が見られたが、ドレン孔の濃度には大きな変化は見られない。
- 監視を継続する。



注　検出された場合のみプロット

図　地下貯水槽No.1～3のドレン孔、検知孔の放射性物質濃度（２０１３年４月～）

地下貯水槽No.6周辺観測孔の濃度上昇について

- 地下貯水槽No.6は、これまでに漏えいは確認されていないが、 2013年の地下貯水槽No.1～3の漏えい時に一時的に汚染水を貯蔵したことから、周辺観測孔3箇所においてモニタリングを継続中。水抜きは完了済み。
- 4月21日のサンプリングにおいて、全ベータ放射能濃度を検出。翌日の再サンプリングで濃度の低下を確認。
- 検出された全ベータ放射能濃度は、300Bq/L前後と地下貯水槽No.1～３の周辺と比べても低く、貯留水もほとんど無いこと、及びドレン孔、検知孔の濃度上昇も見られていないことから、地下貯水槽による影響の可能性は低いと考えている。
- 引き続きモニタリングを継続する。

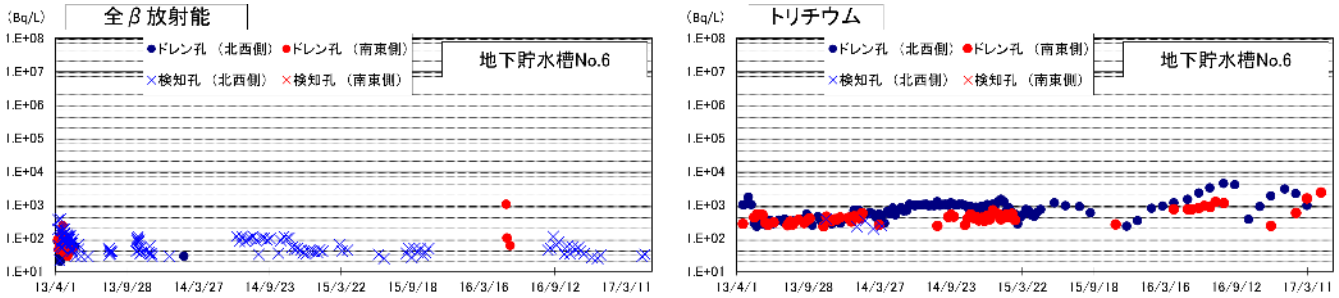


図　地下貯水槽No.6ドレン孔、検知孔の放射性物質濃度（２０１３年４月～）　注　検出された場合のみプロット

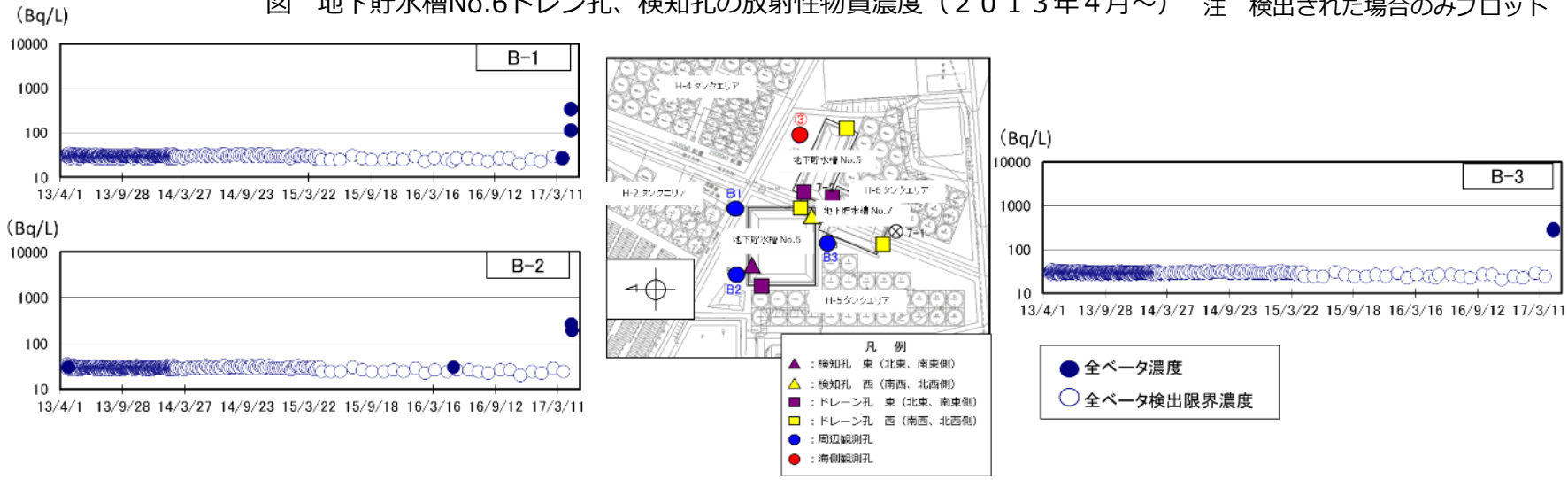


図　地下貯水槽No.6周辺観測孔の放射性物質濃度（２０１３年４月～）

（２）地下水バイパスの運用状況について

地下水バイパスの運用状況について

TEPCO

・地下水バイパスは、２０１７年５月９日に１６７回目 の排水を完了。排水量は、合計 ２７７,６０７m^3
・ポンプの運転状況を確認しつつ、適宜点検・清掃を実施中。（2017.５.９現在　全１２台稼働中）

採水日	3月29日		4月5日		4月12日		4月19日		4月27日		運用目標	※1 告示濃度限度	WHO 飲料水水質ガイドライン
分析機関	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関	東京電力	第三者機関			
セシウム134（単位：Bq/L）	ND(0.54)	ND(0.75)	ND(0.71)	ND(0.73)	ND(0.58)	ND(0.57)	ND(0.43)	ND(0.70)	ND(0.79)	ND(0.68)	1	60	10
セシウム137（単位：Bq/L）	ND(0.58)	ND(0.75)	ND(0.63)	ND(0.60)	ND(0.53)	ND(0.72)	ND(0.53)	ND(0.57)	ND(0.46)	ND(0.59)	1	90	10
その他ガンマ核種（単位：Bq/L）	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	※2 検出されないこと		
全ベータ（単位：Bq/L）	ND(0.64)	ND(0.58)	ND(0.72)	ND(0.50)	ND(0.72)	ND(0.46)	ND(0.79)	ND(0.56)	ND(0.64)	ND(0.53)	5(1)(注)		
トリチウム（単位：Bq/L）	130	130	120	130	110	130	120	130	120	120	1,500	60,000	10,000

排水日	4月11日	4月18日	4月25日	5月2日	5月9日
排水量（単位：m3）	1,774	1,809	1,794	1,825	1,740

＊第三者機関：日本分析センター
＊NDは検出限界値未満を表し、（　）内に検出限界値を示す。
(注) 運用目標の全ベータについては、10日に１回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。
※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度（別表第２第六欄：周辺監視区域外の水中の濃度限度［本表では、Bq/cm^{3}の表記をBq/Lに換算した値を記載］）
※2 セシウム134,セシウム137の検出限界値「1Bq/L未満」を確認する測定にて検出されないこと（天然核種を除く）。

（3） サブドレン他水処理施設の稼働状況

1-1．サブドレン他水処理施設の概要

TEPCO

■ サブドレン他水処理施設は、集水設備、浄化設備、移送設備から構成される。

＜集水設備＞

サブドレン集水設備

１～４号機タービン建屋等の周辺に設置されたサブドレンピットから地下水をくみ上げる設備

地下水ドレン集水設備

海側遮水壁と既設護岸の間に設置された地下水ドレンポンドから地下水をくみ上げる設備

＜浄化設備＞

サブドレン他浄化設備

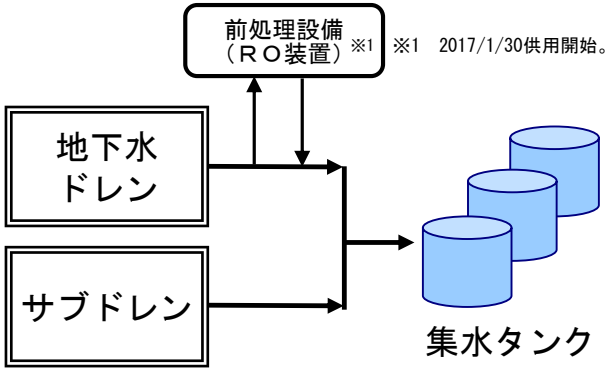
くみ上げた水に含まれている放射性核種（トリチウム除く）を十分低い濃度になるまで除去し、一時貯水タンクに貯留する設備

＜移送設備＞

サブドレン他移送設備

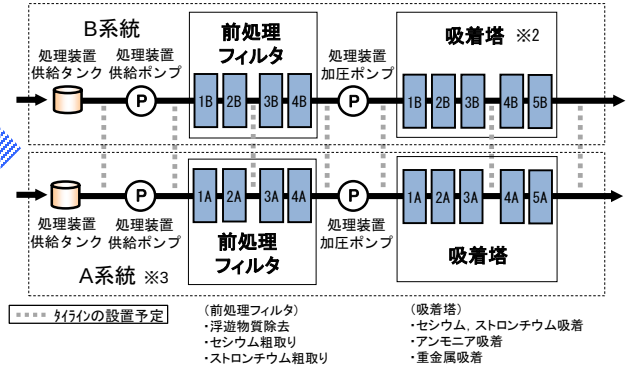
一時貯水タンクに一時貯留した処理済水を水質分析した後、排水する設備

【集水設備】地下水のくみ上げ



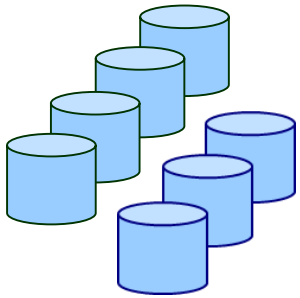
※1　2017/1/30供用開始。

【浄化設備】くみ上げた地下水の浄化



※2　2015/11/6～Cs／Sr吸着、3塔構成。
※3　サブドレン他浄化設備2系列化　4月14日A系供用開始

【移送設備】水質確認・排水

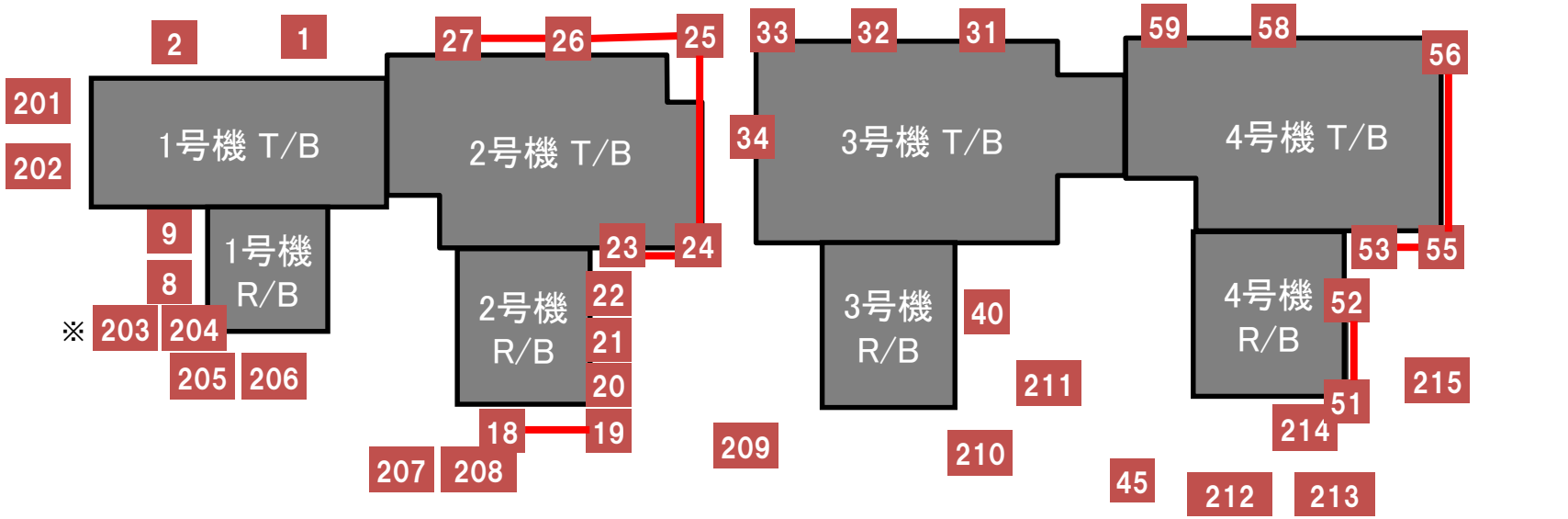


一時貯水タンクのサンプリング、排水設備

1-2. サブドレンの汲み上げ状況（２４時間運転）

TEPCO

- 山側サブドレンＬ値をT.P.5,064（O.P.6,500）から稼働し、段階的にＬ値の低下を実施。
  実施期間：2015年9月17日～
  Ｌ値設定：2017年2月17日～ T.P.2,000（O.P.3,436）で稼働中。
- 海側サブドレンＬ値をT.P. 4,064（O.P.5,500）から稼働し、段階的にＬ値の低下を実施。
  実施期間：2015年10月30日～
  Ｌ値設定：2017年2月17日～ T.P.2,000（O.P.3,436）で稼働中。
- 至近一ヵ月あたりの平均汲み上げ量：約503m^3（2017年4月8日15時～2017年5月7日15時）

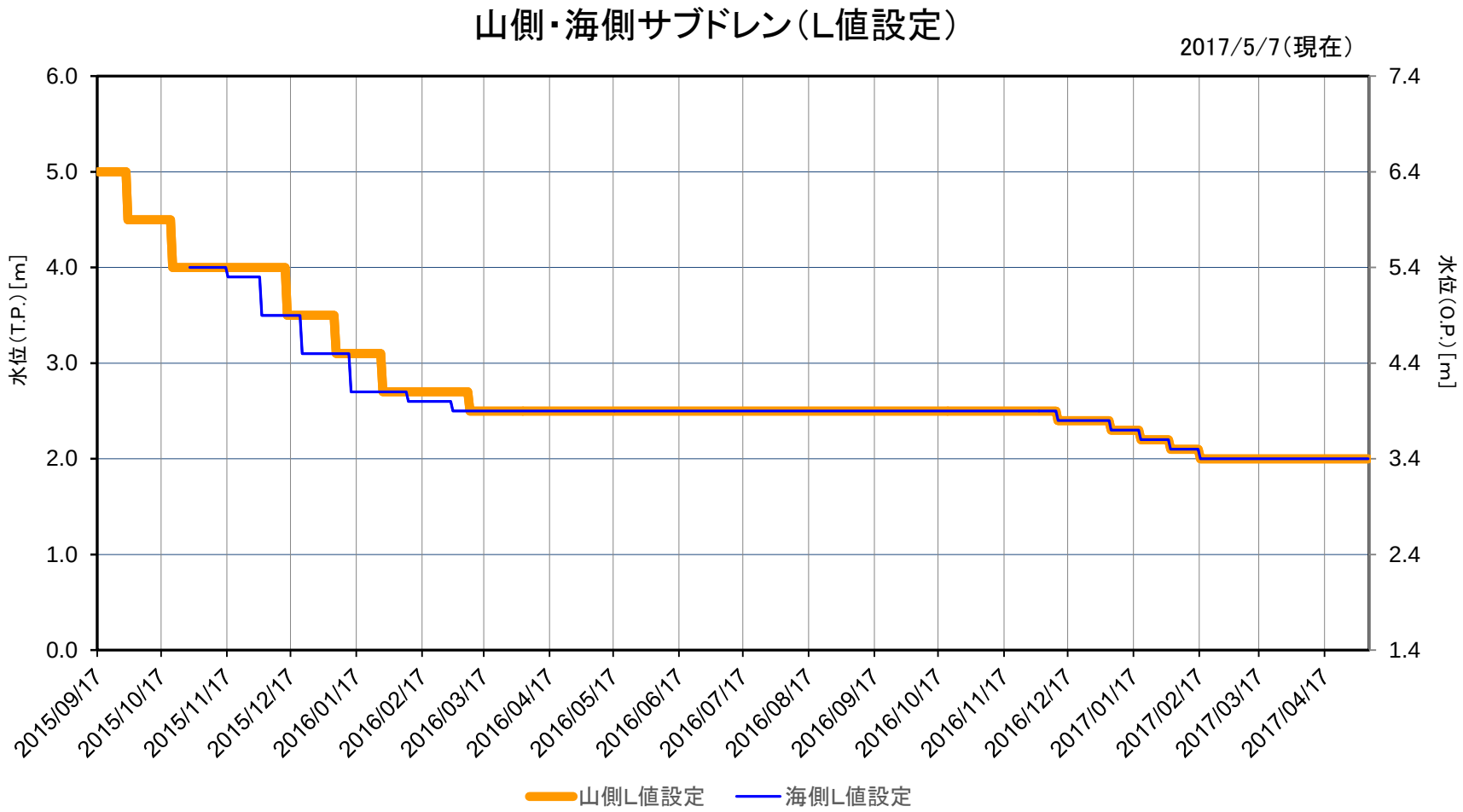


※ ピット増強供用開始

1-3.　サブドレン稼働状況

■（山側サブドレン）2015/9/17より山側サブドレン24時間稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施し、L値設定：2017年2月17日～ T.P.2,000（O.P.3,436）で稼働中。

■（海側サブドレン）2015/10/30より海側サブドレン稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施し、L値設定：2017年2月17日～ T.P.2,000（O.P.3,436）で稼働中。



1-4. 至近の排水実績

TEPCO

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、2017年5月7日までに390回目の排水を完了。 排水量は、合計323,635m^3。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β＝3, H3＝1,500(Bq/L)）未満である。

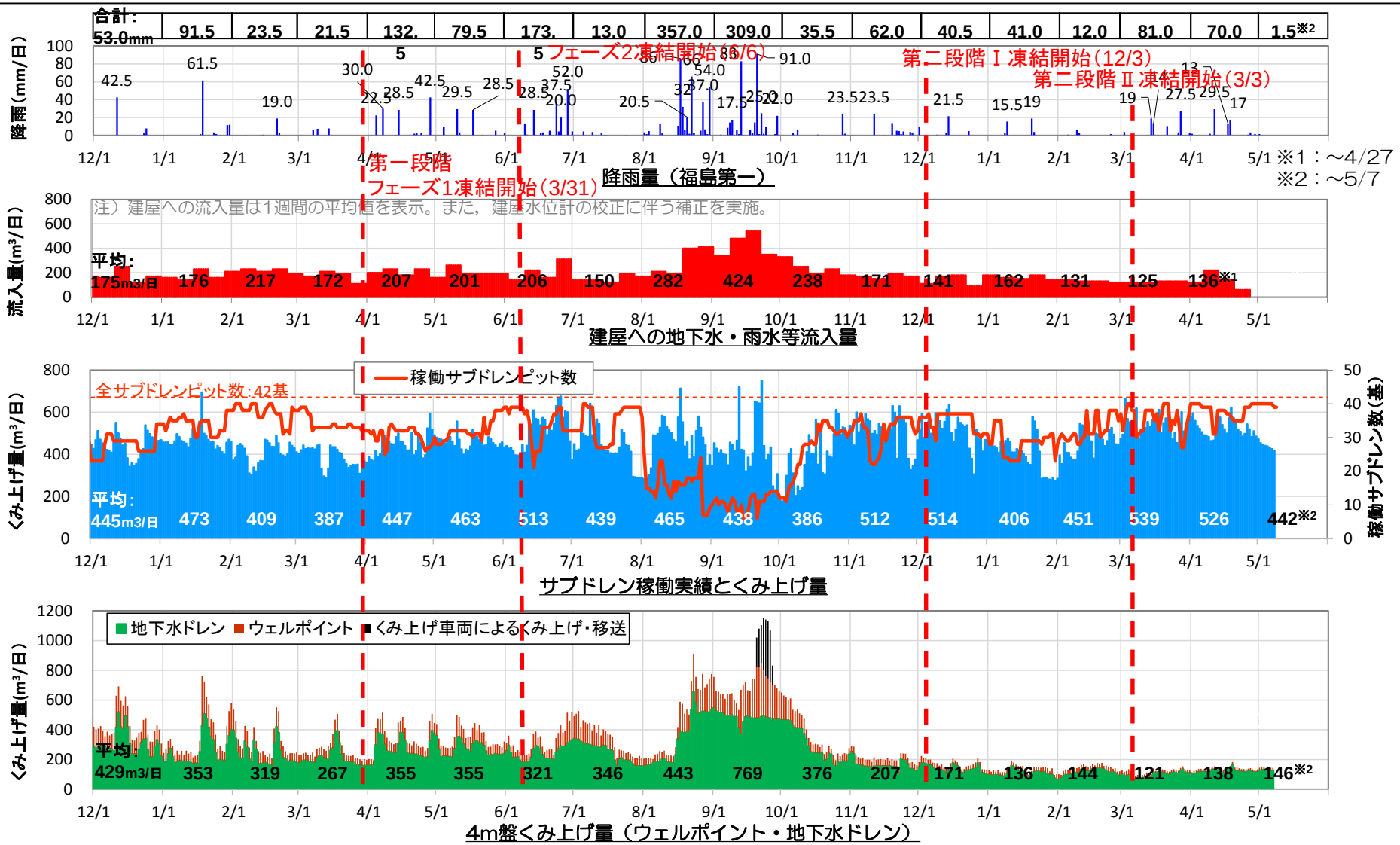
排水日		4/30	5/1	5/3	5/4	5/6	5/7
一時貯水タンクNo.		D	E	F	G	A	B
浄化後の水質(Bq/L)	試料採取日	4/25	4/26	4/28	4/29	5/1	5/2
	Cs-134	ND(0.62)	ND(0.60)	ND(0.62)	ND(0.49)	ND(0.68)	ND(0.49)
	Cs-137	ND(0.46)	ND(0.63)	ND(0.58)	ND(0.53)	ND(0.53)	ND(0.71)
	全β	ND(2.5)	ND(2.3)	ND(0.64)	ND(2.7)	ND(0.68)	ND(2.1)
	H-3	820	890	960	830	910	870
排水量(m^3)		995	978	894	936	938	822
浄化前の水質(Bq/L)	試料採取日	4/23	4/24	4/26	4/27	4/29	4/30
	Cs-134	15	18	16	17	16	13
	Cs-137	120	120	120	110	100	110
	全β	―	290	―	―	―	―
	H-3	890	1100	1100	880	1000	940

＊NDは検出限界値未満を表し、（　）内に検出限界値を示す。
＊運用目標の全ベータについては、10日に１回程度の分析では、検出限界値を １ Bq/Lに下げて実施。
＊浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

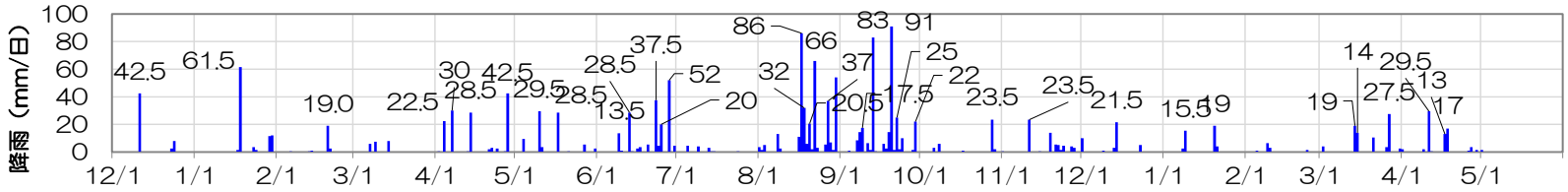
2-1. 1F降雨と建屋への地下水流入量・各くみ上げ量の推移

TEPCO

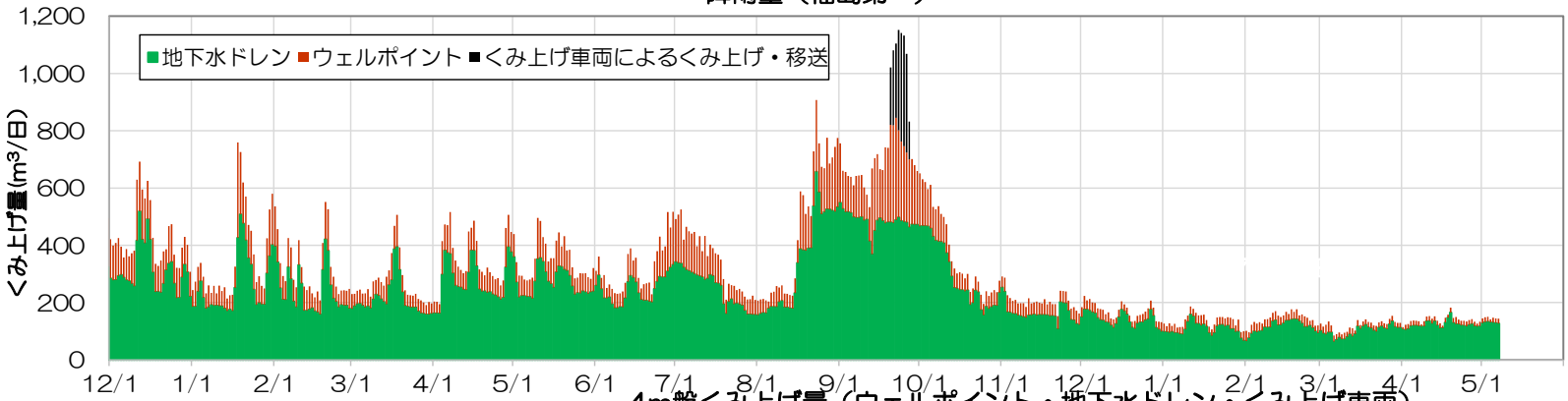
・建屋への流入量は，10月以降降雨が少ないことと，陸側遮水壁（山側）の凍結進展およびサブドレン稼働により，建屋周辺水位が低下しており，減少傾向である。
・サブドレンくみ上げ量は，11月以降は安定して500m³/日程度となっていたが、至近では減少傾向が認められる。サブドレン稼働台数は多い状態を維持している。
・4m盤くみ上げ量は，10月以降減少傾向が続いており，3月6日には既往最小くみ上げ量：85m³/日となった。



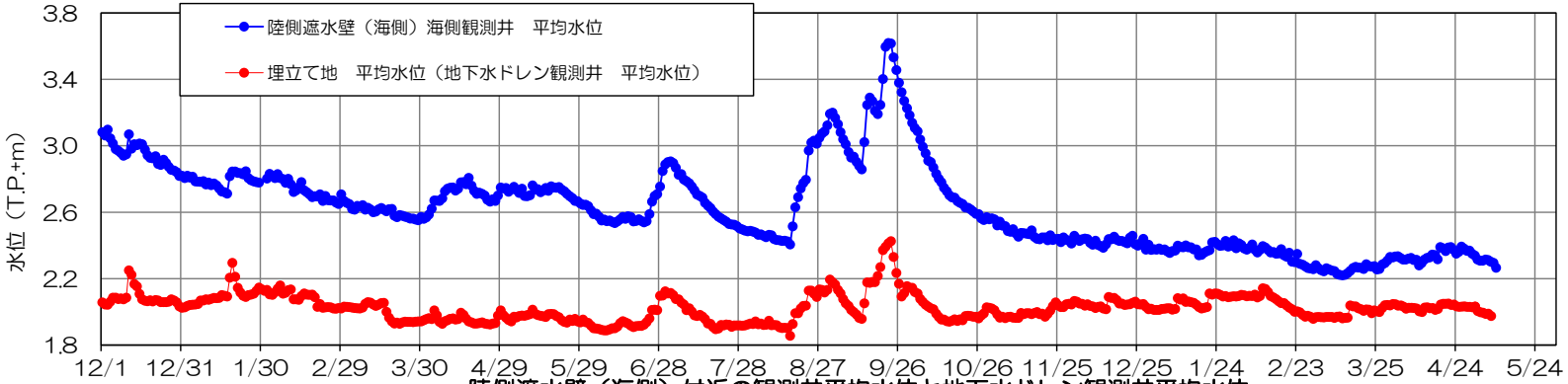
2-2. 4m盤くみ上げ量と陸側遮水壁の海側および埋立て地水位の推移



降雨量（福島第一）



4m盤くみ上げ量（ウェルポイント・地下水ドレン・くみ上げ車両）

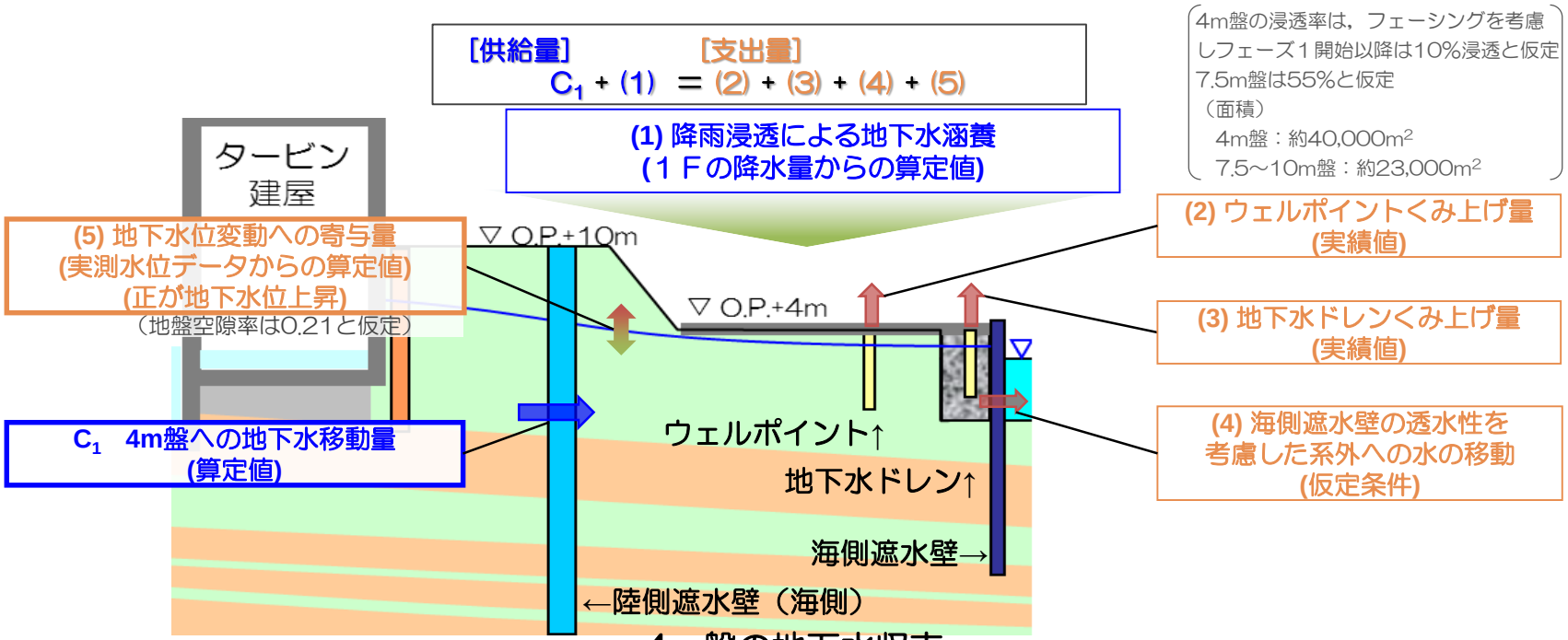


陸側遮水壁（海側）付近の観測井平均水位と地下水ドレン観測井平均水位

2-3. 凍結開始前と現状の4m盤の地下水収支の評価

- 凍結開始前と現状で4m盤の地下水収支の評価を比較すると，4m盤への地下水移動量は段々と減少している。（降雨は多くない期間で比較）
- 減少している要因は，雨水浸透防止策（フェーシング等），サブドレン稼働，陸側遮水壁（海側）の閉合などの複合効果によるものと考えられる。

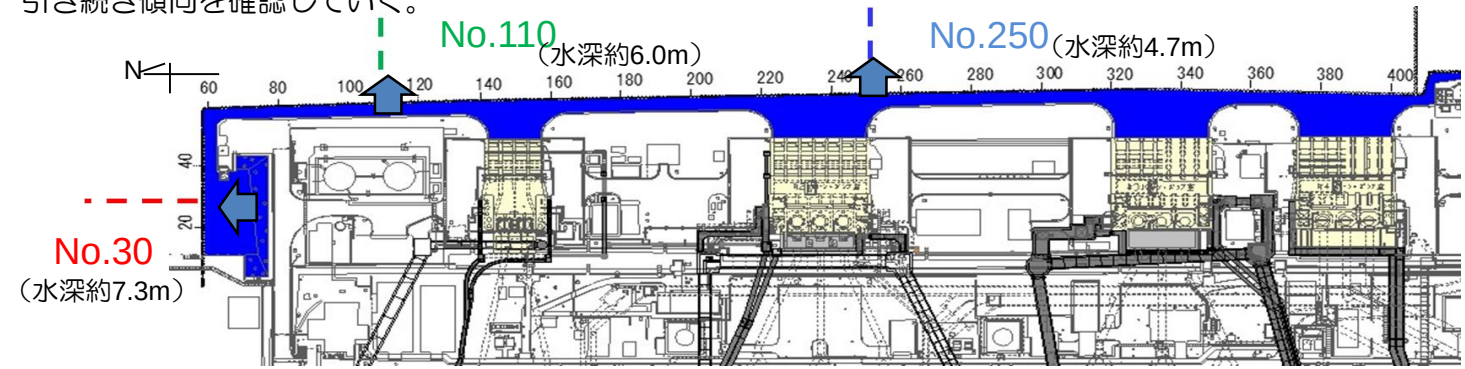
実績値(m^3/日)	4m盤への地下水移動量 C_1	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2016.3.1～3.31	**250**	20	60	210	30	-30
2017.3.1～3.31	**120**	50	20	100	30	20
2017.4.1～4.30	**130**	40	20	120	30	0



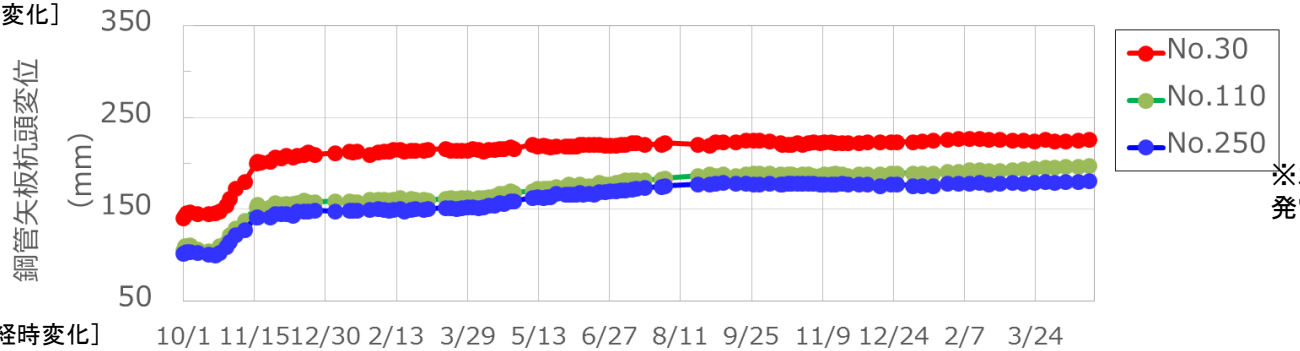
＜参考１＞鋼管矢板のたわみに伴う杭頭変位について

TEPCO

- たわみに伴い生じた鋼管矢板杭頭変位については，至近において顕著な変位増加は確認されておらず鋼管矢板の健全性に問題はないが，引き続き傾向を確認していく。



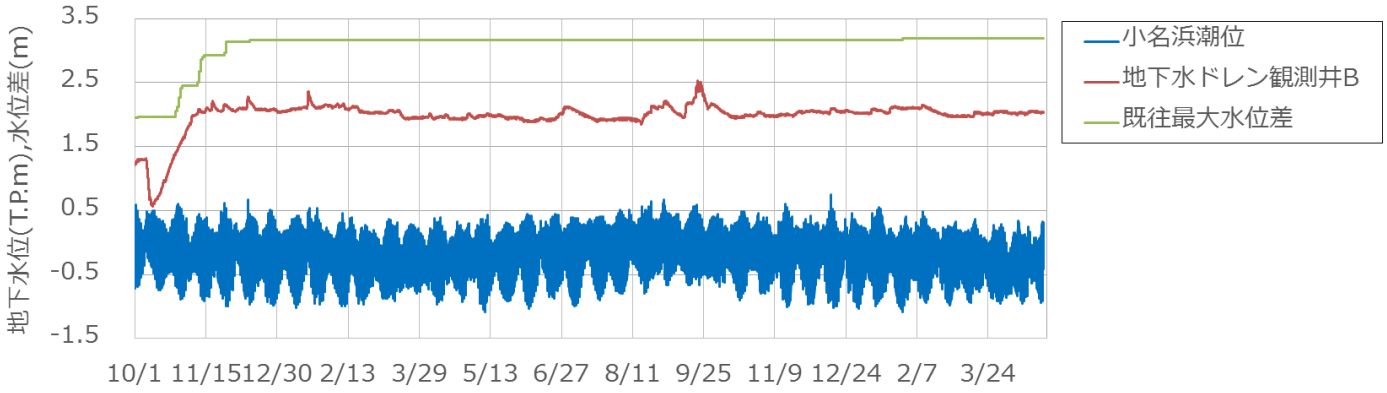
［杭頭変位の経時変化］



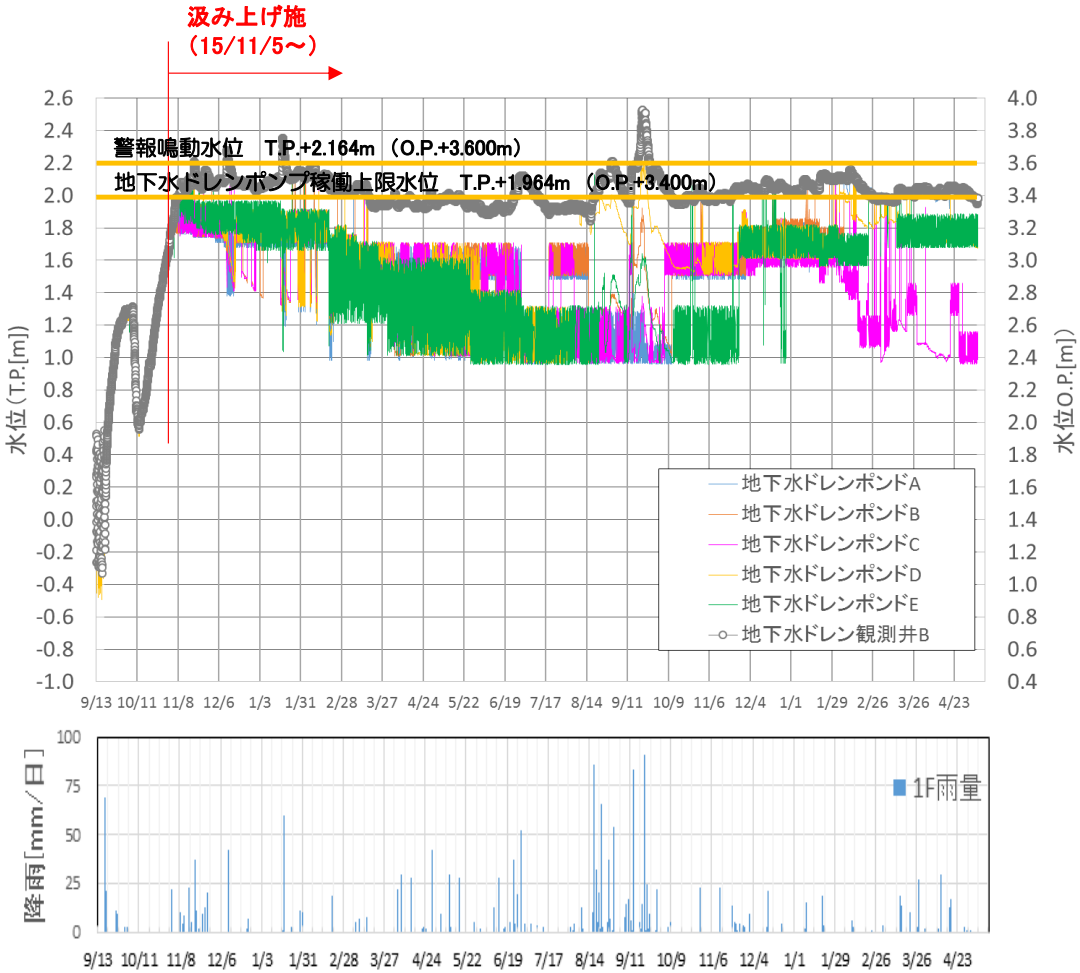
【凡例】
代表断面
変位方向

※水深は福島第一原子力発電所の平均潮位を基準。

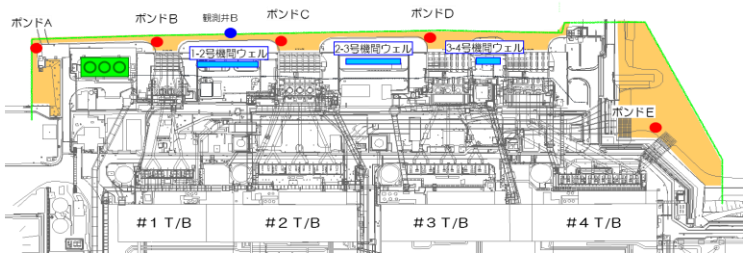
［地下水位，水位差の経時変化］



＜参考２＞地下水ドレン水位および稼働状況



※水位(O.P.)は、震災前標高と比較しやすいよう、目安として記載しているもの。
（水位(T.P.)を水位(O.P.)に換算する場合は、約1.4m～1.5m加算する。）
※水位計点検時の水位データは除く。



サブドレン集水タンク及びT/B移送量 (m³/日平均)

	地下水ドレン						
	合計	ポンドA ポンドB		ポンドC ポンドD		ポンドE	
移送先		T/B	集水タンク	T/B	集水タンク	T/B	集水タンク
03/07 ～ 03/13	79	3	7	0	69	0	0
03/14 ～ 03/20	112	4	2	0	84	0	22
03/21 ～ 03/27	110	3	3	0	65	0	39
03/28 ～ 04/03	113	2	2	0	88	0	21
04/04 ～ 04/10	120	0	0	0	103	0	17
04/11 ～ 04/17	124	0	0	0	102	0	22
04/18 ～ 04/24	133	2	2	0	90	0	39
04/25 ～ 05/01	120	0	0	0	88	0	32
05/02 ～ 05/08	126	0	0	0	82	0	44

※既往最低値：合計79m³/日週平均（H29/3/7～H29/3/13）

ウェルポイント移送量 (m³/日平均)

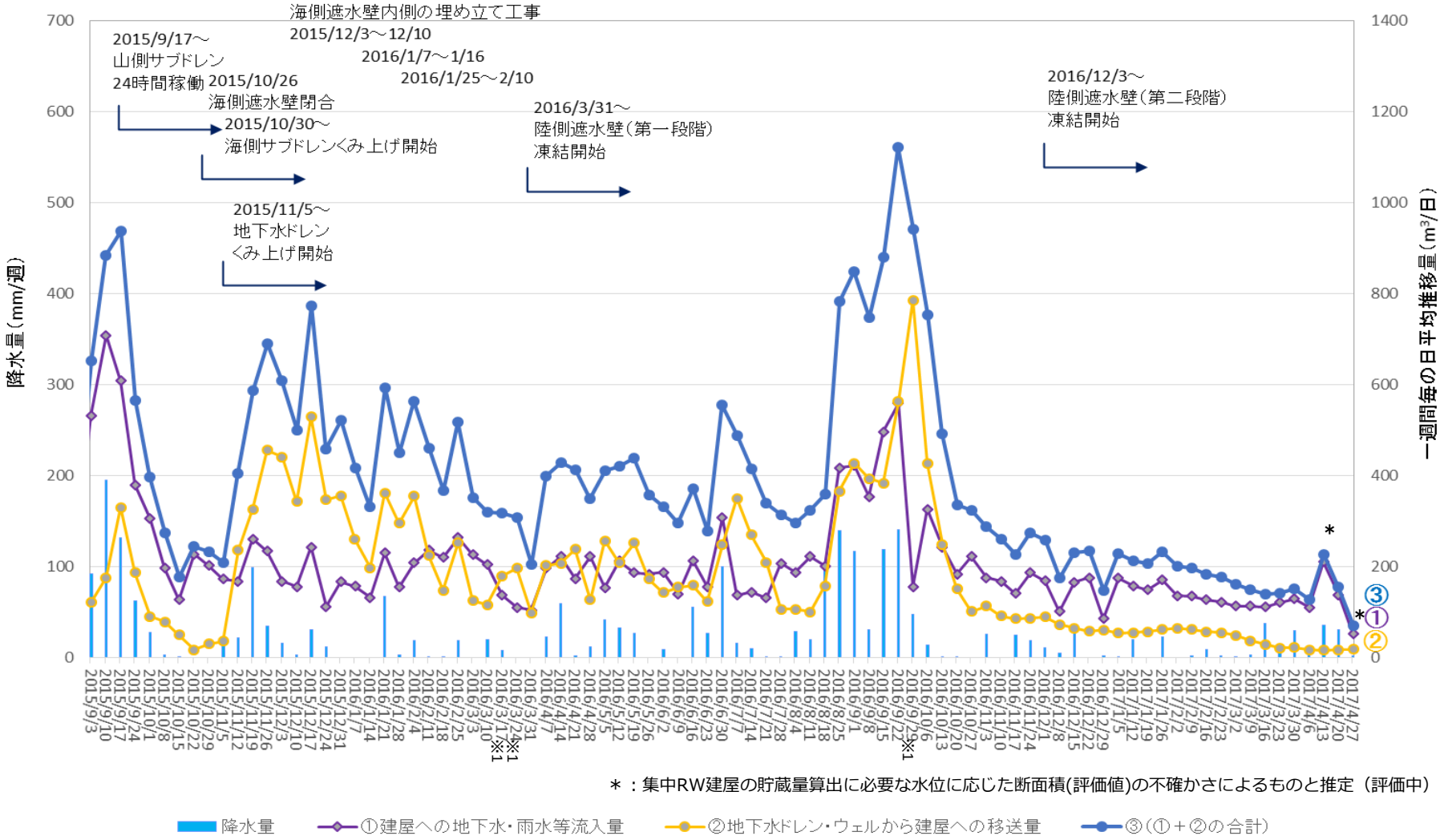
	ウェルポイント			
	合計	1-2号間	2-3号間	3-4号間
移送先		T/B	T/B	T/B
03/07 ～ 03/13	19	19	0	0
03/14 ～ 03/20	17	17	0	0
03/21 ～ 03/27	17	17	0	0
03/28 ～ 04/03	16	16	0	0
04/04 ～ 04/10	16	16	0	0
04/11 ～ 04/17	15	15	0	0
04/18 ～ 04/24	18	18	0	0
04/25 ～ 05/01	16	16	0	0
05/02 ～ 05/08	15	14	1	0

※移送先のT/Bはタービン建屋、集水タンクはサブドレン集水タンク

＜参考３＞建屋への地下水ドレン移送量・地下水流入量等の推移

TEPCO

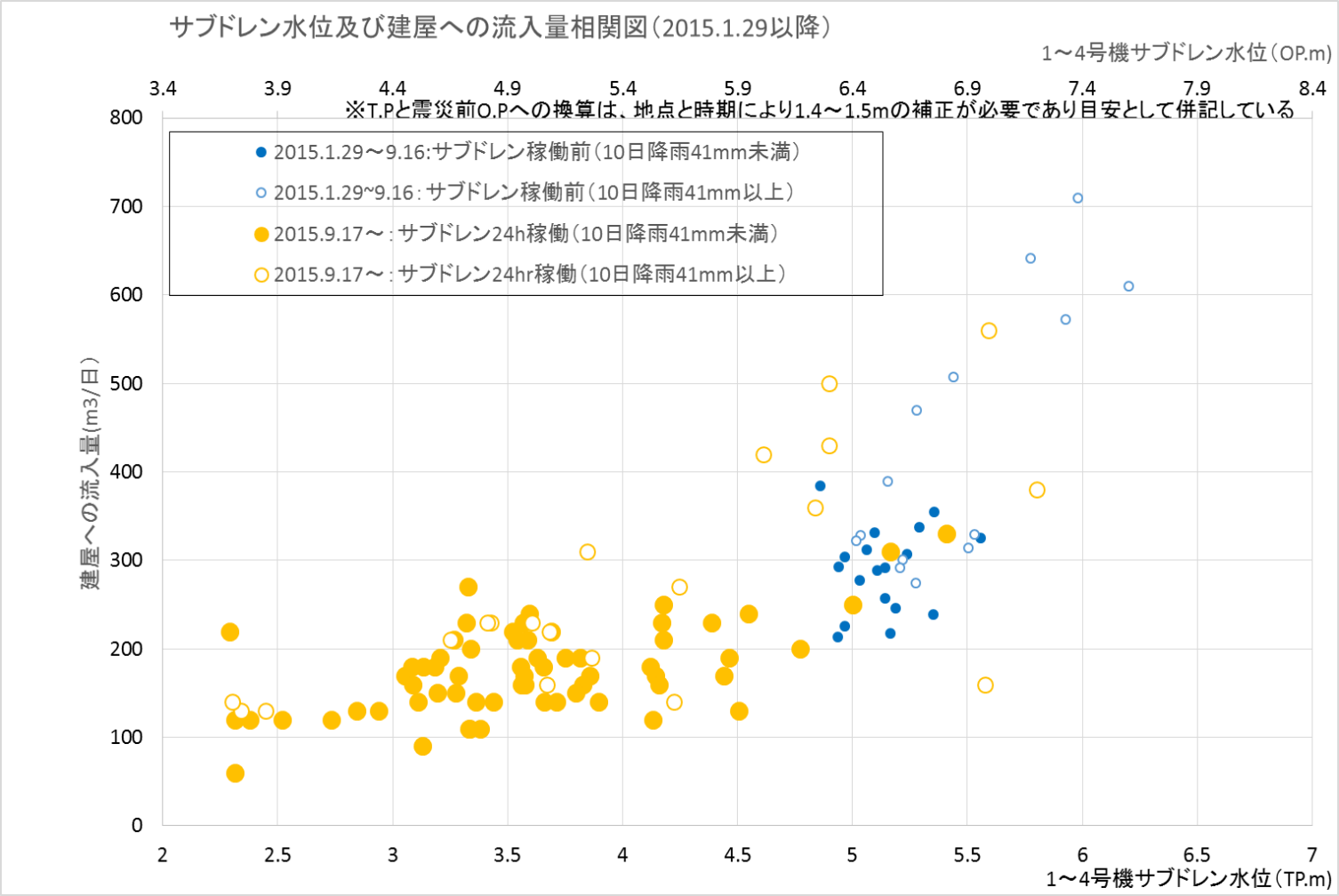
- ①建屋への地下水・雨水等流入量：52m3/日，②地下水ドレン・ウェルからの建屋への移送量：18m3/日，③（①+②の合計）：70m3/日，降雨量：2.5mm/週
- ※1　建屋水位計の校正を実施



＜参考４＞サブドレン稼働後における建屋流入量評価結果（1-4号機サブドレン水位）

2017.4.27現在

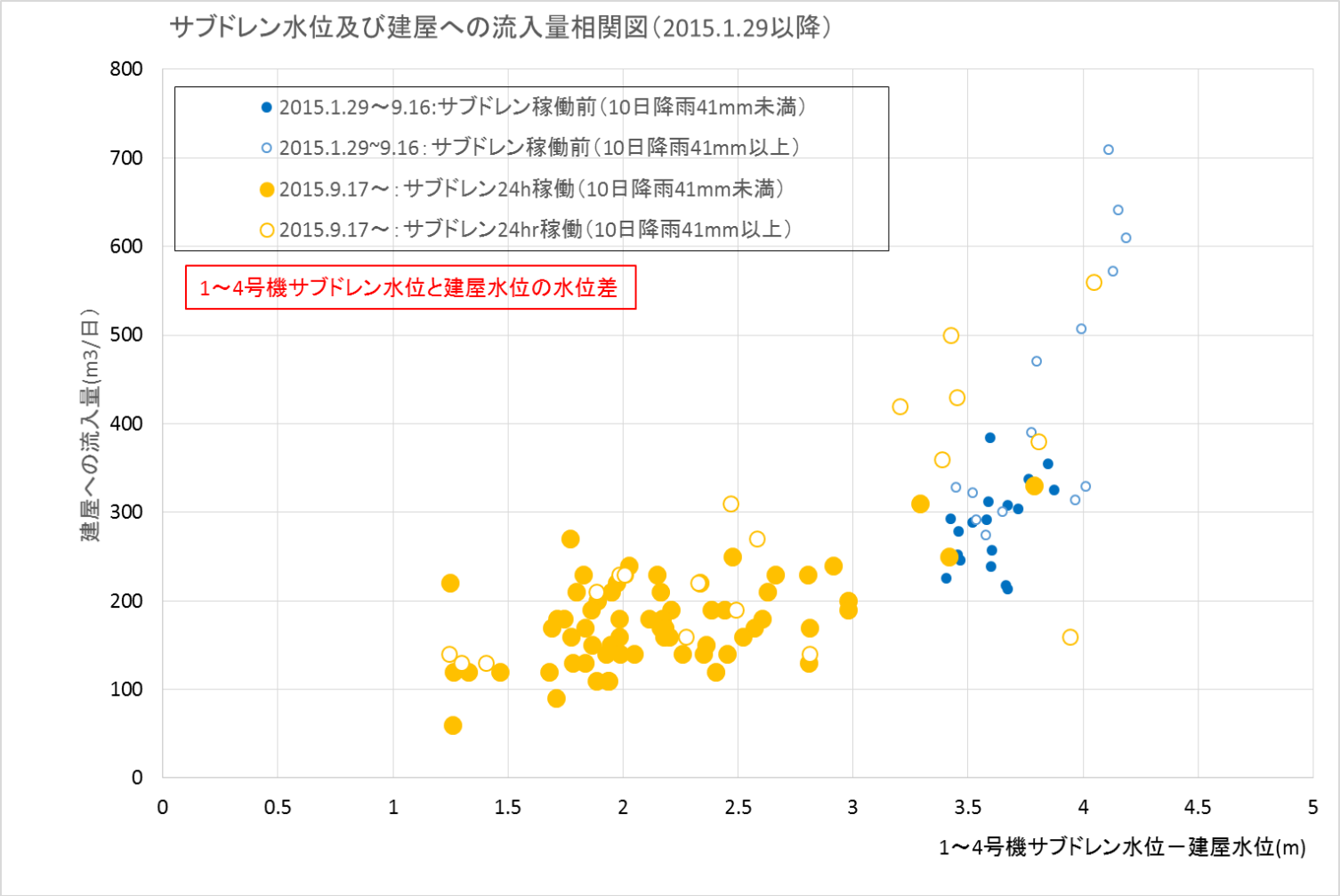
- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位と相関が高いことから、サブドレンの水位（全孔平均）でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働によりサブドレン水位がTP3.0mを下回ると、建屋への流入量も150m³/日を下回ることが多くなっている。



＜参考５＞サブドレン稼働後における建屋流入量評価結果（サブドレン水位-建屋水位）

2017.4.27現在

- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位－建屋水位とも相関が高いことから、サブドレンの水位（全孔平均）-建屋水位でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働により水位差が1.5mを下回ると、建屋への流入量も150m³/日を下回ることが多くなっている。



＜参考６＞サブドレンピット水質一覧（2017.５.８現在）

TEPCO

単位：Bq/L

	建屋	ピット	セシウム 134	セシウム 137	全β	トリチウム	採取日
既設ピット	1号機	1	14	140	170	12,000	2017/04/27
		2	ND(3.9)	ND(4.4)	ND(14)	8,000	2017/04/27
		3	18,000	120,000	120,000	910	2017/02/20
		8	ND(4.6)	23	41	ND(100)	2017/02/26
		9	ND(5.3)	32	41	1,200	2017/04/19
	2号機	18	20	160	210	170	2017/04/19
		19	47	340	400	380	2017/04/19
		20	ND(5.6)	ND(4.4)	17	740	2016/06/24
		21	ND(4.8)	14	14	ND(110)	2016/06/24
		22	6.6	44	36	190	2016/06/24
		23	ND(5.5)	21	20	220	2017/04/27
		24	47	290	280	140	2017/04/27
		25	180	1,300	1,600	2,400	2017/04/27
		26	27	190	540	370	2017/04/27
		27	440	3,400	12,000	7,000	2017/04/27
	3号機	30	170	1,100	1,200	280	2017/03/16
		31	ND(5.1)	13	140	220	2017/02/24
		32	ND(3.9)	ND(6.0)	ND(12)	160	2017/04/19
		33	ND(4.1)	9.8	ND(12)	ND(110)	2017/02/24
		34	7.8	66	78	180	2017/02/24
		37	ND(5.5)	18	22	ND(110)	2017/02/28
		40	26	170	210	160	2017/04/19

●「ND」は検出限界値未満を表し，（　）内に検出限界値を示す。

	建屋	ピット	セシウム 134	セシウム 137	全β	トリチウム	採取日
既設ピット	4号機	45	ND(4.1)	ND(4.3)	ND(12)	ND(100)	2016/06/29
		51	ND(3.5)	ND(5.0)	ND(12)	ND(100)	2016/06/29
		52	ND(8.9)	ND(15)	ND(18)	ND(130)	2015/08/12
		53	ND(9.3)	ND(18)	ND(11)	ND(130)	2015/08/25
		55	ND(10)	ND(16)	ND(11)	ND(130)	2015/08/25
		56	ND(3.5)	ND(4.6)	ND(1.2)	ND(110)	2017/04/19
		57	ND(5.0)	23	ND(11)	ND(100)	2016/11/16
		58	ND(10)	18	ND(12)	ND(130)	2015/11/06
		59	ND(3.5)	6.7	ND(15)	150	2016/07/11
新設ピット	1号機	201	ND(5.7)	ND(3.8)	ND(11)	ND(110)	2017/02/20
		202	ND(4.6)	ND(4.4)	ND(10)	ND(120)	2016/06/23
		203	ND(5.6)	ND(5.6)	ND(10)	ND(120)	2016/06/23
		204	ND(4.3)	5.9	21	ND(120)	2016/06/23
		205	ND(4.7)	ND(3.8)	ND(10)	ND(120)	2016/06/23
		206	ND(5.5)	ND(4.8)	ND(1.2)	ND(110)	2017/04/19
	2号機	207	ND(5.6)	ND(5.0)	ND(12)	160	2017/04/19
		208	ND(3.9)	ND(4.3)	ND(11)	120	2016/06/24
	3号機	209	ND(4.3)	ND(4.2)	ND(1.2)	ND(110)	2017/04/19
		210	ND(3.9)	3.6	ND(12)	ND(100)	2016/06/29
		211	ND(4.2)	16	54	ND(100)	2016/06/29
	4号機	212	ND(3.7)	ND(3.9)	ND(12)	ND(100)	2016/06/29
		213	ND(4.5)	ND(3.4)	12	ND(100)	2016/06/29
		214	ND(5.7)	ND(4.7)	ND(12)	130	2017/04/19
		215	ND(11)	ND(14)	ND(18)	ND(130)	2015/08/12